

# HYCU簡易手順書

V5.1.0

2025年1月22日



# アジェンダ

---

1 製品の入手

---

2 バックアップコントローラーの展開

---

3 インスタンスの展開

---

4 ソースの登録

---

5 ターゲットの登録

---

6 ポリシーの作成

---

7 データ復元

---

8 アップグレード（バージョンアップ）

---

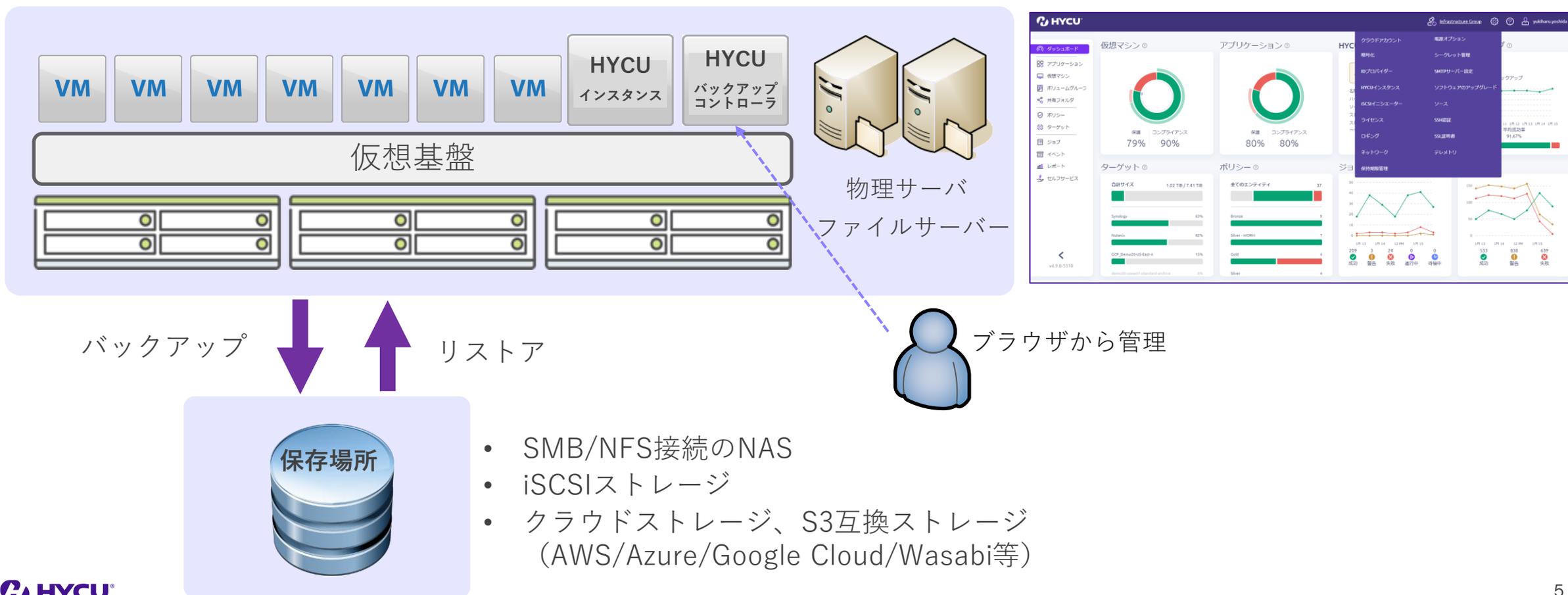
# 製品の入手

# HYCU R-Cloud Hybrid Cloud Edition（略称R-Cloud HCE）について

- HYCU R-Cloud Hybrid Cloud Editionとは、オンプレミス環境のデータ保護（バックアップ/アーカイブ/復元等）を提供するバックアップソリューションであり、仮想アプライアンス形式で提供される製品である。
- HYCUサーバーは動作モードは3つ：
- **HYCUバックアップコントローラー**：仮想マシンと物理マシンのデータ保護を実行する。Nutanixクラスタ上、vSphereクラスタ上、またはAzure Localクラスタ上に展開し、1台で複数のクラスタ環境と物理マシンの保護が可能。
- **HYCUインスタンス**：ファイルサーバーのデータ保護を実行するプロキシとして動作する。Nutanix Filesを保護する場合はNutanix Filesが稼働するクラスタ上に展開する。その他のファイルサーバーをバックアップする場合は展開先は特に指定なし。
- **HYCUマネージャー**：複数のHYCUバックアップコントローラーを統合監視する用途として使用する。多くの場合展開は不要。
- HYCU内蔵のディスクには構成情報やログを保持し、バックアップやアーカイブデータはメタデータを含め外部ストレージに保持する。
- バックアップデータを異なるプラットフォーム（NutanixからVMware/Azure Localへ、またはその逆）へ復元が可能。また、HYCUクラウド製品と連携することで、オンプレミスとクラウド間での双方向の復元も可能。

# 基本構成

- バックアップコントローラと呼ばれる仮想アプライアンスの展開（3分作業）
- ファイルサーバー用にはインスタンスと呼ばれる仮想アプライアンスを追加で展開
- OSやデータベースの構築作業や費用が一切不要。エージェント不要はHYCUだけ！



# HYCUサーバーについて

---

- HYCUサーバーはRocky Linuxをベースに必要なソフトウェアをパッケージ化した軽量の仮想アプリケーションです。
- 30日間のフリートライアルのキーが組み込まれている為、ライセンスが無くても直ぐに評価を開始できます。

フリートライアルのリクエストはこちら：<https://www.hycu.com/ja/get/trial-start>

- ビルドはイメージファイルとして提供しており、イメージファイルはサポートポータルから入手できます。

<https://support.hycu.com/hc/en-us>

Nutanix環境に展開するqcow2イメージファイル、

VMware環境に展開するovfテンプレートとvmdkファイル、

Azure Local環境に展開するvhdファイルの3種類があります。

- 30日間のトライアル期間のほかトライアルライセンス・NFRライセンス・正規ライセンスがあり、トライアルとNFRのライセンスキーは申請により提供可能です。

# バックアップコントローラーの展開

# シナリオ 1 : AHVへのバックアップコントローラーの展開

## ① イメージファイルのアップロード

例 : hycu-5.1.0-2871.qcow2の場合

※登録名はイメージ名と統一すること

Image Name	Type	Status	Size	Actions
hycu-4.5.1-1884	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ ✕
hycu-4.6.0-3452	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ ✕
hycu-4.7.0-1112	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ ✕
hycu-4.7.1-183	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ ✕
hycu-4.8.0-3275	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ ✕
hycu-4.8.1-274	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ ✕
hycu-4.9.0-5310	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ ✕
hycu-5.0.0-1643	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ ✕
hycu-5.1.0-2871	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ ✕
Linux	DISK	ACTIVE	11.68 MiB	✎ ✕

## ② 仮想アプライアンスの作成

Create VM

Name: hycubackup

Description: hycubackup

タイムゾーン: (UTC) UTC

この仮想マシンをエージェント仮想マシンとして使用

Compute Details

vCPU(s): 4

Number Of Cores Per vCPU: 1

Memory: 4 GiB

# シナリオ 1 : AHVへのバックアップコントローラーの展開

Disk: CD-ROMの削除 (オプション)

Disk1台目 : イメージサービスからクローン

Disk2台目 : データディスク (メタデータと

ログ保存用) として32GBディスクを作成

Add Disk

Type  
DISK

Operation  
Clone from Image Service

Bus Type  
SCSI

Image ?  
hycu-5.1.0-2871

Size (GiB) ?  
10  
Please note that changing the size of an image is not allowed.

Index  
Next Available

Cancel Add

Add Disk

Type  
DISK

Operation  
Allocate on Storage Container

Bus Type  
SCSI

Storage Container  
default-container-70412818642825 (15...

Size (GiB) ?  
32

Index  
Next Available

Cancel Add

# シナリオ 1 : AHVへのバックアップコントローラーの展開

---

NICの追加 :

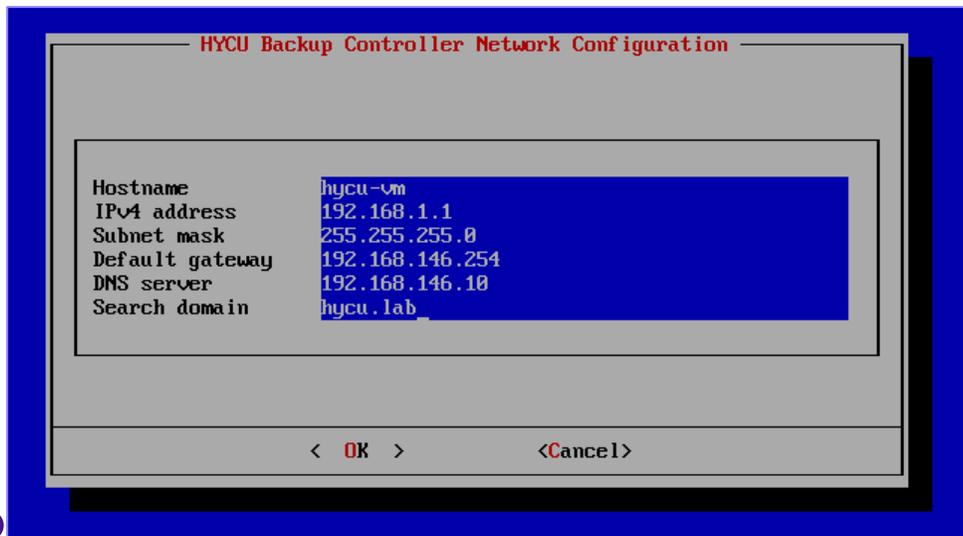
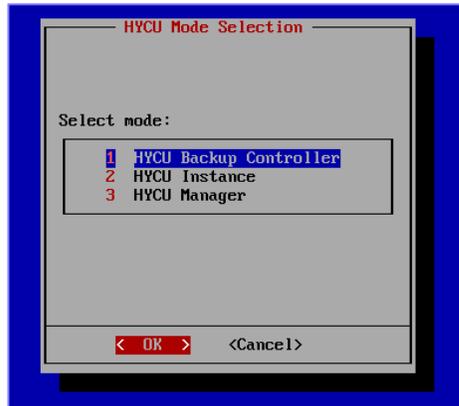
Nutanix環境との接続は1台目のNICとなりますが、異なるネットワークに接続されているストレージをターゲットとする環境では複数NICを設定します。

HYCU側でNIC枚数の制限はありません。

③ 仮想マシン作成後、仮想マシンを起動

# シナリオ 1 : AHVへのバックアップコントローラーの展開

④ 仮想アプライアンスのモード指定  
「1 HYCU Backup Controller」と  
ネットワーク設定の入力



⑤ ブラウザから管理画面に接続

https://(コントローラーのアドレス):8443 に接続

ユーザー名 : admin

パスワード : admin



以上で展開作業は終了

# シナリオ 2 : ESXiへのバックアップコントローラーの展開

## ① OVFテンプレートのデプロイ

vCenterから[OVFテンプレートのデプロイ]を実行し、[ローカルファイル]の[ファイル選択]ボタンからダウンロードしたファイル2つを指定

### OVF テンプレートのデプロイ

- 1 OVF テンプレートの選択
- 2 名前とフォルダの選択
- 3 コンピューティング リソース...
- 4 詳細の確認
- 5 ストレージの選択
- 6 設定の確認

**OVF テンプレートの選択**  
リモート URL またはローカル ファイル システムから OVF テンプレートを選択します

URL を入力してインターネットから OVF パッケージをダウンロードおよびインストールするか、またはコンピュータからアクセス可能な場所 (ローカル ハード ドライブ、ネットワーク共有、CD/DVD ドライブなど) を参照します。

URL  
 ローカル ファイル

http | https://remoteserver-address/filetodeploy.ovf | .ova

2 ファイル



## ② ウィザードに従い、設定を進める

### OVF テンプレートのデプロイ

- 1 OVF テンプレートの選択
- 2 名前とフォルダの選択
- 3 コンピューティング リソース...
- 4 詳細の確認
- 5 ストレージの選択
- 6 設定の確認

**名前とフォルダの選択**  
一意の名前とターゲットの場所を指定します

仮想マシン名:

この仮想マシンの場所を選択してください。

- pro-vcenter.dev.com
  - Datacenter

# シナリオ 2 : ESXiへのバックアップコントローラーの展開

## ③ OVFテンプレートのデプロイ

[設定]画面で[HYCU Backup Controller]を選択し、[NEXT]に進む。

OVF テンプレートのデプロイ

- ✓ 1 OVF テンプレートの選択
- ✓ 2 名前とフォルダの選択
- ✓ 3 コンピューティングリソ...
- ✓ 4 詳細の確認
- 5 設定**
- 6 ストレージの選択
- 7 ネットワークの選択
- 8 テンプレートのカスタマイズ
- 9 設定の確認

設定  
デプロイ構成の選択

HYCU Backup Controller

説明  
HYCU backup controller mode

HYCU Instance

HYCU Manager

3 アイテム

CANCEL BACK NEXT



## ④ ネットワーク情報を入力

OVF テンプレートのデプロイ

- ✓ 1 OVF テンプレートの選択
- ✓ 2 名前とフォルダの選択
- ✓ 3 コンピューティングリソ...
- ✓ 4 詳細の確認
- ✓ 5 設定
- ✓ 6 ストレージの選択
- ✓ 7 ネットワークの選択
- 8 テンプレートのカスタマイズ**
- 9 設定の確認

テンプレートのカスタマイズ  
このソフトウェア ソリューションのデプロイ プロパティをカスタマイズします。

すべてのプロパティに有効な値があります

Network Settings		7 settings
1) Hostname	DNS hostname for the virtual appliance.	hycubackup
2) IP address	IP address for the virtual appliance.	192.168.146.25
3) Netmask	Network netmask.	255.255.255.0
4) Gateway	Gateway IP address.	192.168.146.2
5) DNS Servers	Comma separated list of IP addresses for DNS servers.	192.168.146.11
6) Search Domain	Enter domain used as part of a domain search	

CANCEL BACK NEXT

# シナリオ 2 : ESXiへのバックアップコントローラーの展開

## ⑤ OVFテンプレートのデプロイ

設定を確認し、問題が無ければ[FINISH]をクリック

OVF テンプレートのデプロイ

設定の確認  
作成を開始するには「終了」をクリックします。

- ✓ 1 OVF テンプレートの選択
- ✓ 2 名前とフォルダの選択
- ✓ 3 コンピューティングリソース...
- ✓ 4 詳細の確認
- ✓ 5 設定
- ✓ 6 ストレージの選択
- ✓ 7 ネットワークの選択
- ✓ 8 テンプレートのカスタマイズ
- 9 設定の確認

プロビジョニングタイプ	テンプレートからのデプロイ
名前	hycubackup
テンプレート名	hycu-4.5.0-354
ダウンロードサイズ	不明
ディスク上のサイズ	不明
フォルダ	Datacenter
リソース	192.168.146.10
ストレージのマッピング	1
すべてのディスク	データストア: datastore1-2、形式: シンプロビジョニング
ネットワークのマッピング	1
VM Network	VM Network
IP アドレスの割り当て設定	
IP プロトコル	IPv4
IP アドレスの割り当て	静的 - 手動

CANCEL BACK FINISH

注意点：展開後にCPU数とメモリ容量を要件に合わせて変更してください。その後にVMを起動します。

## ⑥ ブラウザから管理画面に接続

https://(コントローラーのアドレス):8443 に接続

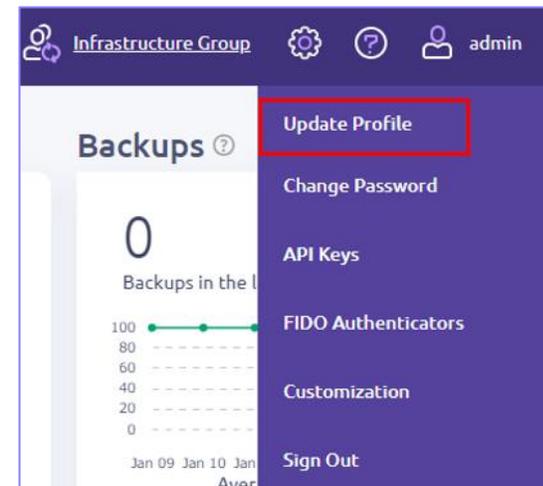
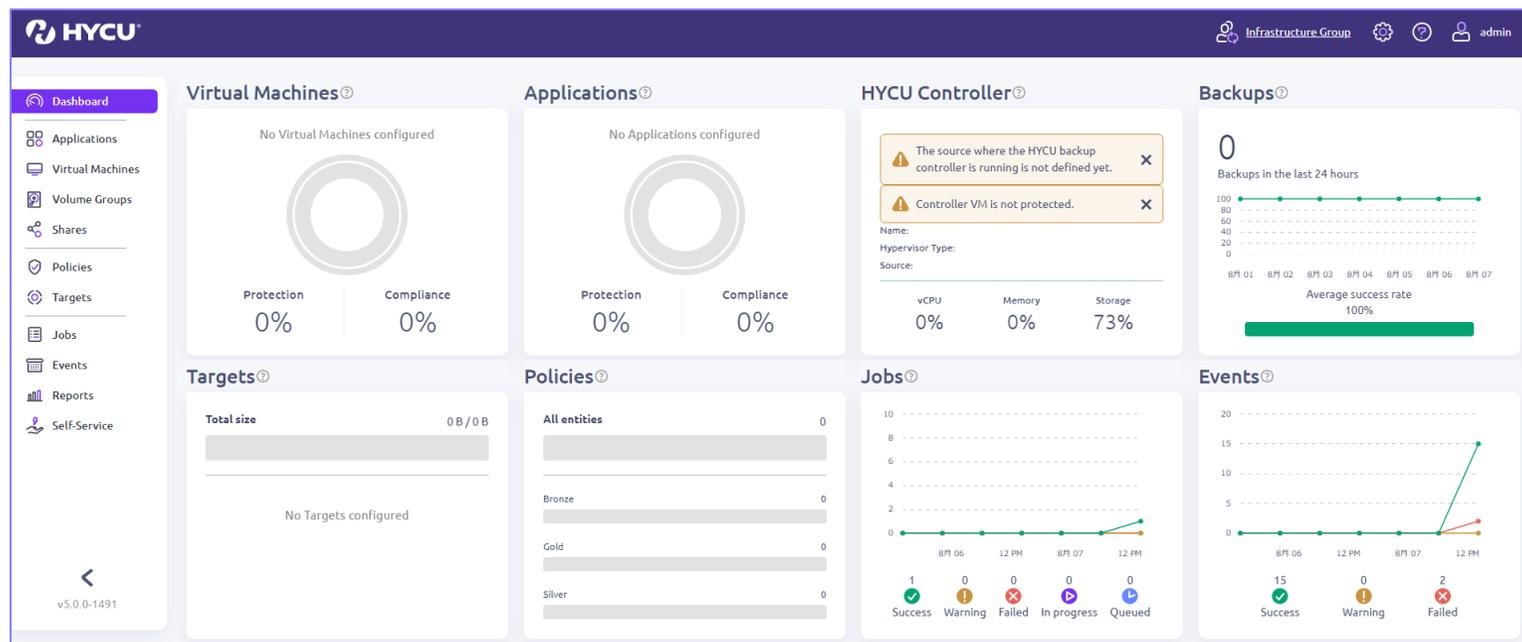
ユーザー名：admin

パスワード：admin



# 言語の切り替え

サインイン後、最初は英語画面になっていますが、アカウント毎に言語の指定が可能です。  
表示言語を切り替えるには、画面右上のアカウントをクリックし、[Update Profile]を選択します。  
[Language]で日本語を選択し、[Save]ボタンをクリックします。



The 'Update Profile' form contains the following fields and options:

- Name:** Input field containing 'admin'.
- Email - Optional:** Input field.
- Language:** Dropdown menu currently set to '日本語'.
- Two-factor authentication:** Toggle switch currently turned on.
- Buttons:** 'Close' and 'Save' buttons at the bottom right.

# 完全な製品日本語対応

**HYCU** Infrastructure Group yukiharu.yoshida

**ダッシュボード**

- アプリケーション
- 仮想マシン
- ボリュームグ...
- 共有フォルダ
- ポリシー
- ターゲット
- ジョブ
- イベント
- レポート
- セルフサービス

**仮想マシン**

項目	値
保護	96%
コンプライアンス	98%

**アプリケーション**

項目	値
保護	83%
コンプライアンス	100%

**ターゲット**

合計サイズ: 4.58 TiB / 132.44 TiB

ターゲット	進捗
Data Domain DDBoost Lock	100%
Data Domain DDBoost	92%
DD - SMB	92%

**ポリシー**

エンティティ	数
全てのエンティティ	80
Bronze	45
Bronze Azure	6
Devops_Cold	6

**ジョブ**

ステータス	数
成功	339
警告	2
失敗	9
進行中	0
待機中	0

**イベント**

ステータス	数
成功	1400
警告	67
失敗	316

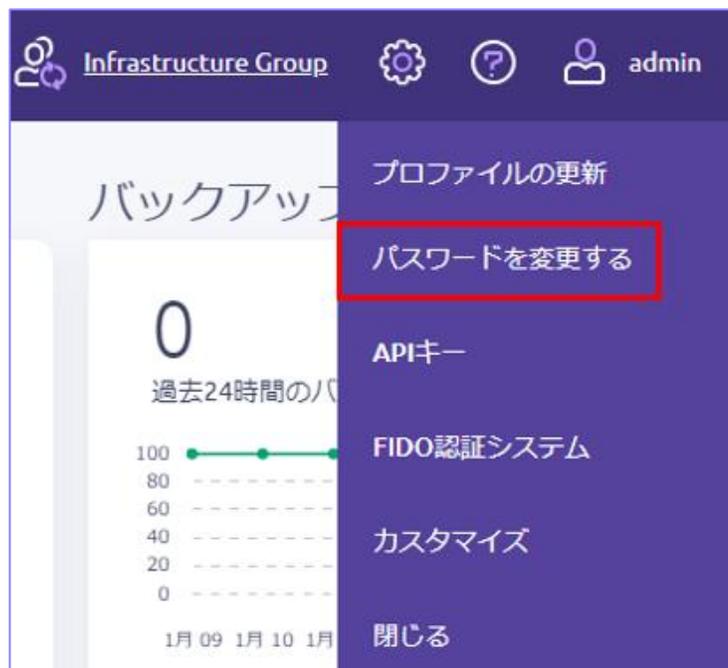
**メニュー**

- クラウドアカウント
- 暗号化
- IDプロバイダー
- HYCUインスタンス
- iSCSIイニシエーター
- ライセンス
- ロギング
- ネットワーク
- 保持期限管理
- 電源オプション
- シークレット管理
- SMTTPサーバー設定
- ソフトウェアのアップグレード
- ソース
- SSH認証
- SSL証明書
- テレメトリ

平均成功率: 97.55%

# 補足

- ・ 作成した仮想マシンのローカルのコンソール接続する場合の既定のアカウントはこちら  
ユーザ名：hycu  
パスワード：hycu/4u
- ・ ESXi環境への展開後はHYCU VMのCPU数とメモリ容量を環境に合わせて変更してください。
- ・ パスワード変更は右上のアカウント名をクリックすると表示されるメニューの[パスワードを変更する]から実行します。



# 補足

---

- HYCU VMは時刻設定を行う必要がありません。HYCU VMが稼働するNutanixクラスタをソースとして登録することで、Nutanixクラスタ側の時刻設定を引き継ぎます。  
vSphere環境では、vSphere環境から時刻設定を引き継ぎます。  
Azure Local環境では、時刻設定を引き継ぐことができません。
- 帯域幅は「管理」→「ネットワーク」→「スロットリング」メニューで設定  
宛先、帯域幅制限、時間帯を指定
- 通知は画面左「イベント」→「通知」で設定  
EメールまたはWebhookを利用  
カテゴリとステータスを指定
- Active Directory連携やシングルサインオン対応、RBAC権限管理、セルフサービス

# データ取得の仕組み

データ取得ルールはポリシー内で指定

- データ取得はバックアップ、コピー、アーカイブの3タイプ
- 仮想マシンのバックアップは基本的に「完全バックアップ+増分バックアップ」方式

ただし、Nutanix環境やVMware vSAN/vVol環境では

**永久増分方式 = 「スナップショットのみ」 + 「オブジェクトストレージへの永久増分アーカイブ」**が可能

- 物理マシンのバックアップは「完全バックアップ+増分バックアップ」方式
- ファイルサーバーのバックアップは「完全バックアップ+増分バックアップ」または「**永久増分バックアップ**」の2種類
- アーカイブは「オブジェクトストレージストレージへの永久増分アーカイブ」または「その他ストレージへの常にフルアーカイブ」の2種類。
- コピーはバックアップデータのコピー実行
  
- バックアップのスケジュールはポリシー内のバックアップ頻度とバックアップウィンドウで管理
- コピーのスケジュールはコピーウィンドウで管理
- アーカイブのスケジュールは開始日/時間を指定
- データ取得時にデータの保持期間を指定し、期限切れ後に紐付くデータ（完全+増分）が削除可能なタイミングでまとめて削除される。削除は1時間毎に実行するクリーンアップジョブにて行っている

# データ取得方式の一例

対象ソース	種類	データ取得方式	バックアップ先	アーカイブ先（長期保管）
Nutanix AHV/ESXi	仮想マシン	完全/増分バックアップ	SMB/NFS/iSCSI/オブジェクトストレージ	オブジェクトストレージ
		永久増分バックアップ (スナップショット+永久増分アーカイブ)	スナップショット	オブジェクトストレージ
VMware vSphere	仮想マシン	完全/増分バックアップ	SMB/NFS/iSCSI/オブジェクトストレージ	オブジェクトストレージ
VMware vSAN/vVolのみ	仮想マシン	永久増分バックアップ (スナップショット+永久増分アーカイブ)	スナップショット	オブジェクトストレージ
Azure Local	仮想マシン	完全/増分バックアップ	SMB/NFS/iSCSI/オブジェクトストレージ	オブジェクトストレージ
Windows	物理マシン	完全/増分バックアップ	SMB	オブジェクトストレージ
Linux	物理マシン	完全/増分バックアップ	NFS	オブジェクトストレージ
ファイルサーバー	共有フォルダ	永久増分バックアップ	SMB/NFS/オブジェクトストレージ	SMB/NFS/オブジェクトストレージ ※アーカイブではなくコピー

# 運用で必要となる作業

---

1. ソース（保護対象）としてNutanixクラスタやVMwareクラスタを登録
2. ソースとしてNutanix Filesを登録（Nutanix Filesが存在する場合）
3. ターゲット（バックアップストレージ）の登録
4. ポリシー（バックアップ/アーカイブ等のジョブのルール）の作成と割り当て
5. 仮想マシン/ファイルフォルダ/アプリケーション単位の復元

# インスタンスの展開

インスタンスはNutanix Filesなどのファイルサーバーのバックアップに使用します。

この章はNutanix Filesをバックアップする手順を紹介しており

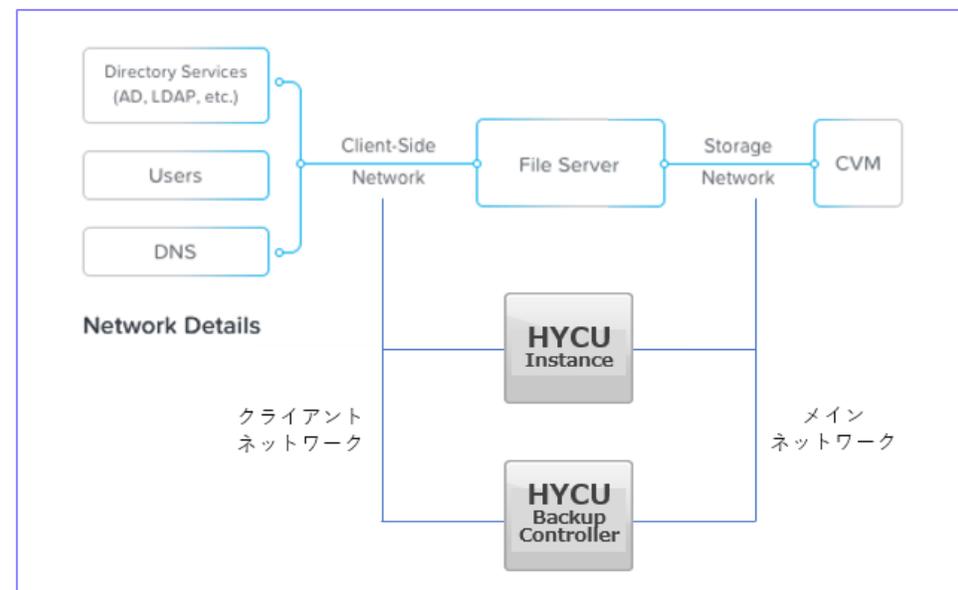
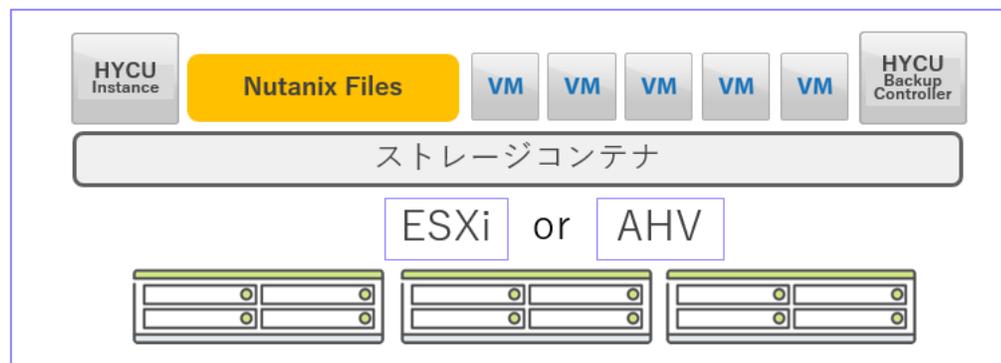
仮想マシンをバックアップする場合は、この章をスキップしてください。

# Nutanix Filesのバックアップ

Nutanix Filesに代表されるファイルサーバーのバックアップにプロキシとして動作するインスタンスを使用します。バックアップの設定はバックアップコントローラーから行いますが、インスタンスがバックアップと復元の処理を担当し、バックアップデータを直接ターゲット（保存場所）に転送します。

バックアップコントローラーはNutanix CVMと通信をするため、インスタンスも同様にNutanix CVMと通信するネットワークに接続します。ただし、FilesのバックアップはSMB共有フォルダ/NFS共有フォルダ単位で取得するため、クライアント側のネットワークとも通信する必要があります。

下図のように、「Storage Network」と「Client-Side Network」の両方と通信する必要があります。



# Nutanix Filesのバックアップ

---

両ネットワーク間が疎通する環境では、バックアップコントローラーとインスタンスはNIC1枚を使ってネットワークに接続できます。ですが、両ネットワークが疎通しない環境では、NICを2枚登録し各ネットワークに接続設定を行う必要があります。今回は「Storage Network」と「Client-Side Network」が完全に分離されていることを前提にした手順をご紹介します。設定の流れはこちらです。

事前準備：

- バックアップコントローラーにソースとしてNutanix Filesクラスタを登録
- Nutanix FilesクラスタにHYCUイメージファイルをアップロード

設定手順：

1. バックアップコントローラー画面から、2枚目のNICのネットワークを設定
2. バックアップコントローラー画面から、インスタンスを手動展開
3. インスタンスのNIC設定

# 事前準備

## ① ソースの追加

HYCU画面でソースに進みます。ハイパーバイザーとしてNutanix Files クラスタを登録します。



# 事前準備

## ② イメージファイルのアップロード

例：hycu-5.0.0-1491.qcow2の場合

※登録名はイメージ名と統一すること

The screenshot shows the 'Settings' page for 'ntcluster'. The left sidebar has 'Image Configuration' highlighted. The main content area shows a table of image configurations.

Image Name	Type	Status	Size	Actions
hycu-4.5.0-364	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-4.5.1-1884	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-4.6.0-3452	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-4.7.0-1112	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-4.7.1-183	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-4.8.0-3275	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-4.8.1-274	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-4.9.0-5310	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-5.0.0-1491	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
Linux	DISK	ACTIVE	11.68 MiB	✎ · ✕
VMIO	DISK	ACTIVE	56.22	✎ · ✕

# 1. バックアップコントローラーで2枚目のNIC設定

① Prism画面からバックアップコントローラーをシャットダウンし、2枚目のNICを追加します。  
その後、マシンを起動します。

② HYCU管理画面にサインインし、画面右上の管理メニューから[ネットワーク]をクリックします。

③ 2枚目のNICを選択し、[編集]ボタンをクリックします。



Infrastructure Group

- クラウドアカウント
- 電源オプション
- 暗号化
- シークレット管理
- IDプロバイダー
- SMTPサーバー設定
- HYCUインスタンス
- ソフトウェアのアップグレード
- iSCSIイニシエーター
- ソース
- ライセンス
- SSH認証
- ロギング
- SSL証明書
- ネットワーク**
- テレメトリ
- 保持期限管理



ネットワーク

全般 スロットリング

ホスト名  
hycubackup

Rows per page 10 | Page < 1 > of 1 | 2

MAC	DNS	ドメイン名	リスニングポート	IPアドレス	ネットマスク
00:0c:29:b3:28:93	192.168.146.11	dev.com	8443	192.168.146.17	255.255.255.0
00:0c:29:b3:28:9d	192.168.146.11	dev.com		192.168.25.129	255.255.255.0

閉じる 保存

# 1. バックアップコントローラーで2枚目のNIC設定

④ クライアントネットワーク側のIP設定を入力します。デフォルトゲートウェイをストレージネットワーク側で有効にする為、こちらは空白のままにし、[保存]をクリックします。  
※クライアントネットワーク側にデフォルトゲートウェイを設定する場合はこちらにゲートウェイのIPアドレスを入力します。

ネットワーク > 00:0c:29:b3:28:9d

IPv4アドレス  
172.146.1.11

IPv4ゲートウェイ - オプション

ネットマスク  
255.255.255.0

IPv6構成を有効化

ドメイン名 - オプション

DNS - オプション

このポートでのリスニングを有効にする

リスニングポート

SSL証明書  
選択してください

! HYCUネットワーク設定に変更を加えると、自動的にログアウトされ、セッションが再開されます。

閉じる 前へ 保存

「このポートでリスニングを有効にする」を有効化すると、HYCU管理画面に接続ができます。ポート番号を指定します。

# 1. バックアップコントローラーで2枚目のNIC設定

⑤ ネットワーク設定の変更により、一度セッションが切断されるため、再度接続します。  
その後、ネットワーク設定が反映したことが確認できます。

### ネットワーク

全般 スロットリング

ホスト名  
hycubackup

編集 メインに設定

Rows per page 10 | Page < 1 > of 1 | 2

MAC	DNS	ドメイン名	リスニングポート	IPアドレス	ネットマスク
00:0c:29:b3:28:93	192.168.146.11	dev.com	8443	192.168.146.17	255.255.255.0
00:0c:29:b3:28:9d	192.168.146.11	dev.com		172.146.1.11	255.255.255.0

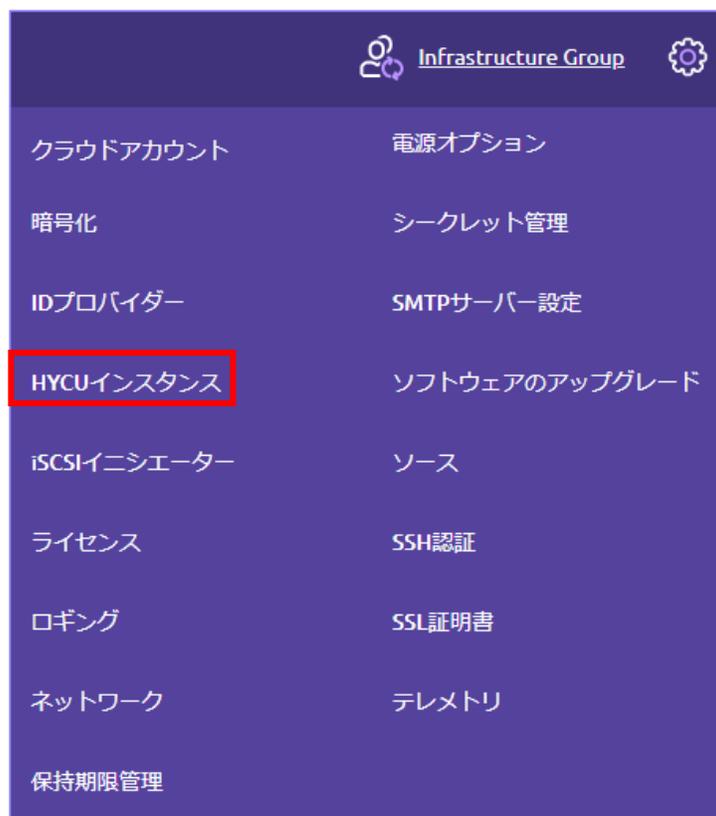
[閉じる](#) [保存](#)

今回はストレージネットワーク側が[メイン]となっています。クライアントネットワークを経由してクラウド等にバックアップする場合、クライアントネットワーク側を[メインに設定]にする必要があります。これは、[メイン]のネットワークがデフォルトゲートウェイを持つ為です。

## 2. インスタンスの展開

① HYCUインスタンスメニューをクリックします。

② [+新規]ボタンをクリックします。



## 2. インスタンスの展開

③ インスタンスのIP設定を行います。ここでは、ストレージネットワーク側に接続するNICが1枚の構成になります。最後に[保存]をクリックします。数分後、インスタンスが正常に作成されたことが確認できます。

### HYCUインスタンス > 新規

**全般**

VM名  
hycuinstance

**ネットワーク設定**

ホスト名  
hycuinstance

DHCP

IPアドレス  
192.168.146.18

ネットマスク/プレフィックス  
255.255.255.0 自動

ゲートウェイ  
192.168.146.2 自動

**展開**

宛先  
ntcluster

ストレージコンテナ  
default-container-70412818642825 - 370.54GB - 270.93GB free

ネットワーク  
vlan0

閉じる 前へ 保存



### HYCUインスタンス

+ 新規 🗑️ 削除 🔄 アップデート

検索

Rows per page 10 | Page < 1 > of 1 | 1

VM名	ホスト名	ソース	ステータス	バージョン	IPアドレス
hycuinstance	hycuinstance	ntcluster	✔️	5.0.0-1491	192.168.146.18

### 3. インスタンスのNIC設定

---

① Prism画面から**インスタンス**をシャットダウンし、2枚目のNICを追加します。その後、マシンを起動します。

② SSHで**インスタンス**に接続し、NICのネットワークを設定します。

ローカルコンソールのアカウント

ユーザー名：hycu

パスワード：hycu/4u

③ テンプレートファイルを/tmpディレクトリにコピーします。

```
cp /opt/grizzly/misc/ifcfg-mainnetwork.template /tmp/ifcfg-mainnetwork
```

もう1つコピーします。

```
cp /opt/grizzly/misc/ifcfg-mainnetwork.template /tmp/ifcfg-clientnetwork
```

# 3. インスタンスのNIC設定

④ メインネットワークのIP設定を行います。

nano /tmp/ifcfg-mainnetwork

⑤ 以下の値を入力します。

- HWADDR= (メインNICのMACアドレス)  
※MACアドレスはPrismの仮想マシン設定から確認
- DEFROUTE=yes (デフォルトゲートウェイ側をYes)
  
- IPADDR= (IPアドレス)
- PREFIX= (サブネット)
- GATEWAY= (ゲートウェイ)
- DOMAIN= (ドメイン名)
- DNS1= (DNSサーバー)

⑥ 最後に、CTRL + X を入力し、次の確認にてY を入力し保存します。

```
# Important! Hardware address of a interface you want to override, obtained using ip address command
# example (between '-->' '<--'):
# 2: enp0s31f6: <BROADCAST,MULTICAST,UP,LOWER_UP> mtu 1500 qdisc fq_codel state UP group default qlen 1000
#   link/ether --> 50:6b:8d:6d:07:75 <-- brd ff:ff:ff:ff:ff:ff
#   inet 10.17.80.124/16 brd 10.17.255.255 scope global dynamic noprefixroute enp0s31f6
#       valid_lft 31266sec preferred_lft 31266sec
#
# CHANGE THIS !!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
HWADDR=00:0C:29:81:71:F2
# CHANGE THIS !!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

# LEAVE those options as they are!
BOOTPROTO=none
ONBOOT=yes
NM_CONTROLLED=no
TYPE=Ethernet
IPV4_FAILURE_FATAL=no
IPV6INIT=no

# Change this to "yes" ONLY if you want to override settings for default (main) route!
DEFROUTE=yes

# IP address you want to set for specific hardware address
IPADDR=192.168.146.18

# Network mask, for calculating it you can search for: https://duckduckgo.com/?q=cidr+calculator+online
# Most common options
# 255.255.255.0 --> 24
# 255.255.0.0 --> 16
# 255.0.0.0 --> 8
```

### 3. インスタンスのNIC設定

⑦ クライアントネットワークのIP設定を行います。

`nano /tmp/ifcfg-clientnetwork`

⑧ 以下の値を入力します。

- `HWADDR=` (クライアントNICのMACアドレス)  
※MACアドレスはPrismの仮想マシン設定から確認
- `DEFROUTE=no` (デフォルトゲートウェイ側をYes)
- `IPADDR=` (IPアドレス)
- `PREFIX=` (サブネット)
- `GATEWAY=` (ゲートウェイ)  
※ゲートウェイ側でない場合は空白
- `DOMAIN=` (ドメイン名)
- `DNS1=` (DNSサーバー)

⑨ 最後に、CTRL + X を入力し、次の確認にてY を入力し保存します。

```
# Important! Hardware address of a interface you want to override, obtained using ip address command
# example (between '-->' '<-->'):
# 2: eno0s31f6: <BROADCAST,MULTICAST,UP,LOWER_UP> mtu 1500 qdisc fq_codel state UP group default qlen 1000
#   link/ether --> 50:8b:8d:6d:07:75 <-- brd ff:ff:ff:ff:ff:ff
#   inet 10.17.80.124/16 brd 10.17.255.255 scope global dynamic noprefixroute eno0s31f6
#       valid_lft 31266sec preferred_lft 31266sec
#
# CHANGE THIS !!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
HWADDR=00:0C:29:81:71:FC
# CHANGE THIS !!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

# LEAVE those options as they are!
BOOTPROTO=none
ONBOOT=yes
NM_CONTROLLED=no
TYPE=Ethernet
IPV4_FAILURE_FATAL=no
IPV6INIT=no

# Change this to "yes" ONLY if you want to override settings for default (main) route!
DEFROUTE=no

# IP address you want to set for specific hardware address
IPADDR=172.146.1.12

# Network mask, for calculating it you can search for: https://duckduckgo.com/?q=cidr+calculator+online
# Most common options
# 255.255.255.0 --> 24
# 255.255.0.0 --> 16
# 255.0.0.0 --> 8

^G Get Help      ^O Write Out    ^W Where Is    ^K Cut Text    ^J Justify     ^C Cur Pos    ^M-U Undo      ^M-A Mark Text
^X Exit          ^R Read File   ^Y Replace     ^U Uncut Text  ^T To Spell    ^G Go To Line ^M-E Redo     ^M-G Copy Text
```

### 3. インスタンスのNIC設定

⑩ 編集したファイルを/hycudata/etc/sysconfig/network-scriptsにコピーします。

```
sudo cp /tmp/ifcfg-* /hycudata/etc/sysconfig/network-scripts
```

⑪ `cd /etc/sysconfig/network-scripts` コマンドを実行し、次に `ls` コマンドでifcfg-internal\_xxx ファイルを探します。

```
[hycu@hycuinstance ~]$ cd /etc/sysconfig/network-scripts
[hycu@hycuinstance network-scripts]$ ls
ifcfg-internal_d8162d6f-1879-4324-a313-94e682cd7969  ifup-bnep
ifcfg-internal_f9b8b50a-5944-4a67-b904-24d2baaeb9c9  ifup-eth
ifcfg-lo                                             ifup-ippv
ifdown                                              ifup-ipv6
ifdown-bnep                                         ifup-isdn
ifdown-eth                                          ifup-lin
```

⑫ `sudo rm ifcfg-internal_*` コマンドでファイルを削除します。

⑬ `sudo systemctl reboot` コマンドでインスタンスを再起動します。設定は以上です。

### 3. インスタンスのNIC設定（補足）

---

※クライアントネットワークを[メイン]に設定する場合、

インスタンス側の `/opt/grizzly/config.properties` ファイルに以下の値を登録し、インスタンスを再起動する必要があります。

`catalog.master.url.override=https://(IP address):8443`

このIP addressとは、バックアップコントローラーのストレージネットワーク側のIPアドレスです。この値により、クライアント側が[メイン]に変更されても、インスタンスは引き続きストレージネットワーク経由でバックアップコントローラーの設定情報を取得します。

設定方法はこちらです。

1. SSHで `インスタンス` に接続します。
2. `config.properties` ファイルを開きます。  
`sudo nano /hycudata/opt/grizzly/config.properties` を実行します。
3. 一番下に `catalog.master.url.override=https://(IP address):8443` を追加します。
4. `CTRL + X` を入力し、次の確認にて `Y` を入力し保存します。
5. `sudo systemctl reboot` コマンドでインスタンスを再起動します。

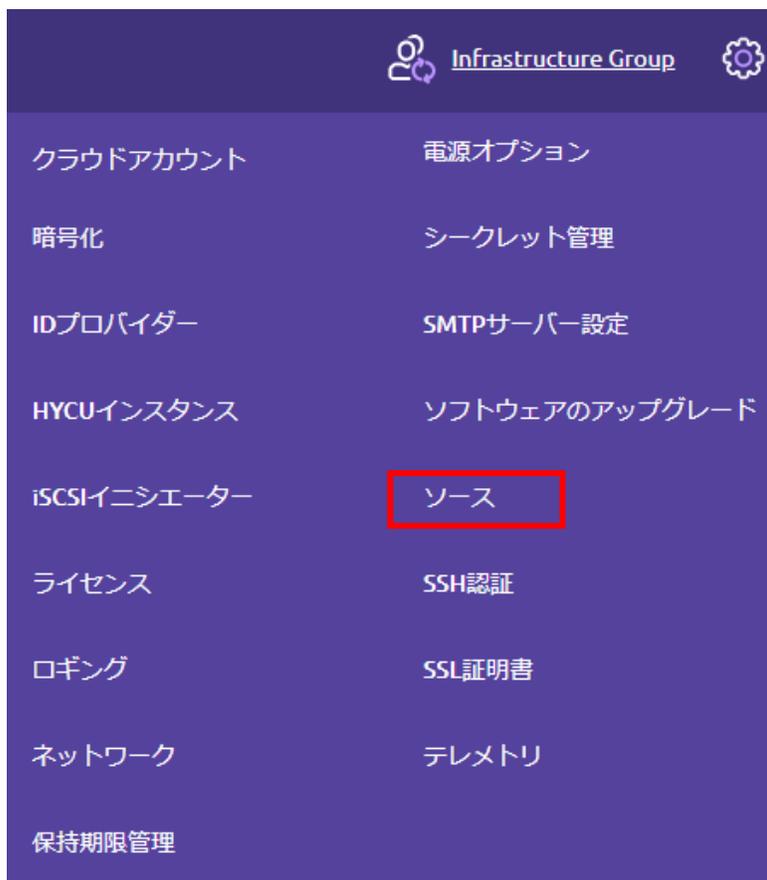
以上です。

# ソースの登録

# ソースとしてNutanixクラスタを登録

① HYCU画面でソースに進みます。

ハイパーバイザータブを選択し、「+新規」をクリックします。



# ソースとしてNutanixクラスタを登録

② Nutanixクラスタ接続のため、次の値を入力します。

- URL：Nutanixクラスタのアドレスをhttps://xxx:9440の形式で入力
- ユーザー名：
- 上記ユーザーのパスワード：

※URLの最後の / は入力しないこと。入力すると無効なURLと表示されます。

※Nutanix側のアカウントはCluster Adminロールが必要です。

### ハイパーバイザー > 新規

URL ⓘ

ユーザー名

パスワード

証明書認証を有効にする

閉じる 前へ **次へ**

# ソースとしてNutanixクラスタを登録

登録が完了すると画面左側の「仮想マシン」メニューから保護対象のインベントリ情報が確認できます。

The screenshot displays the HYCU console interface. On the left, a navigation menu includes '仮想マシン' (Virtual Machines). The main area shows a table of VMs. The '資格情報' (Credentials) menu item is highlighted with a red box. The table has columns for '名前' (Name), 'ソース' (Source), 'ポリシー' (Policy), 'コンプライ...' (Compliance), '保護' (Protection), '検出' (Detection), '資格情報グ...' (Credentials), '検証' (Verification), and '所有者' (Owner). The 'ソース' column is also highlighted with a red box.

名前	ソース	ポリシー	コンプライ...	保護	検出	資格情報グ...	検証	所有者
fdx	Physical		?	×	?		?	
HYCU00	Boston-Nutan...	HYCU Controll...	×	×	?		?	
HYCU00_version_4.8.1-360-ga5c9ab4	Boston-Nutan...		?	✓	?		?	
HYCU00DCNJADVM001	Boston-Nutan...	Silver	✓	✓	✓	Windows Do...	?	
HYCU00DCNJDEVVM004	Boston-Nutan...	Bronze - AWS	✓	✓	×	Linux Root	?	
HYCU00DCNJENGVM001	Boston-Nutan...	Bronze	✓	✓	✓	Windows Do...	?	
HYCU00DCNJEXVM001	Boston-Nutan...	Gold	×	✓	✓	Windows Do...	?	

ここでソースの登録は完了ですが、管理権限のある資格情報を割り当てることで、VM内のアプリケーション認識・アプリケーションバックアップ、プレ/ポストコマンドの実行、ファイルデータの直接復元等が実行できるようになります。

# 資格情報の割り当て

① 画面右上の[資格情報]ボタンをクリックします。



② [+ 新規]ボタンをクリックし、アカウントを登録します。

### 資格情報グループ > 新規

名前

プロトコル

ユーザー名 ②

パスワード

閉じる 前へ **保存**

③ [仮想マシン]ビューから対象となるVMもしくは物理マシンを選択し、再度[資格情報]ボタンをクリックします。割り当てるアカウントを選択し、[割り当て]ボタンをクリックして、割り当ては完了です。

### 資格情報グループ

検索 Rows per page 50 | Page < 1 > of 1 | 3

名前	ユーザー名
Fedora Admin	admin
Linux Root	root
Windows Domain Admin	demolab.net\Administrator

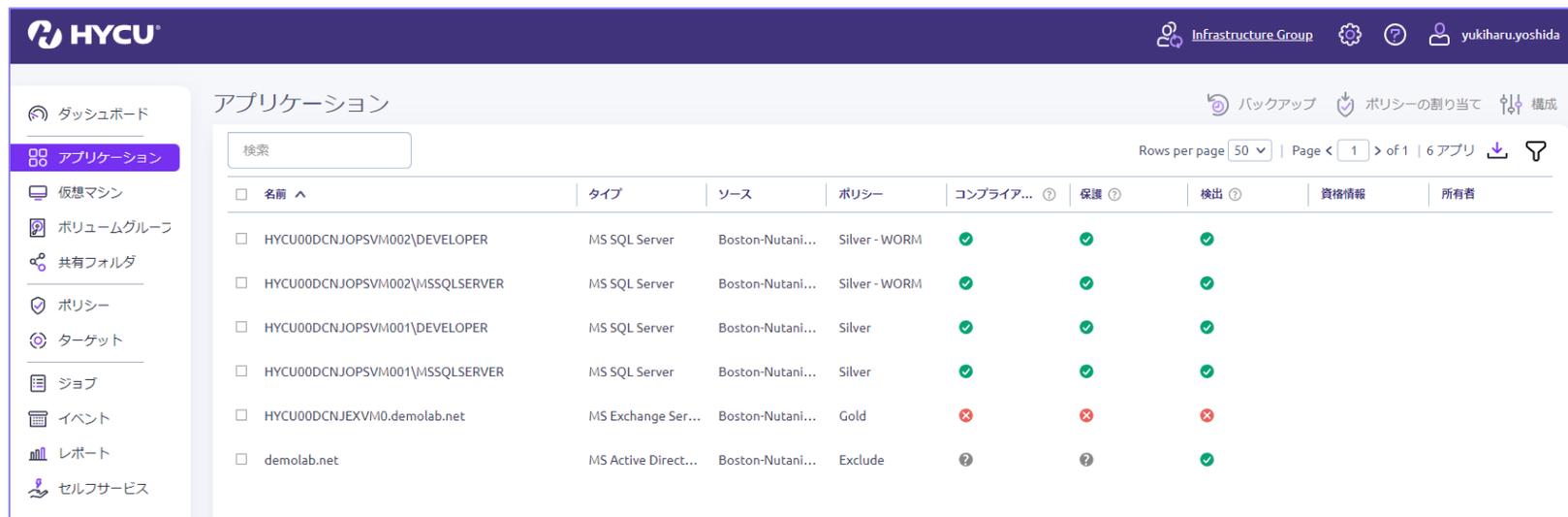
閉じる **割り当て解除** **割り当て**

# 資格情報の割り当て

[検出]列に緑のチェックマークが付けば、自動検出は正常に完了しています

保護 ?	検出 ? ^	資格情報グ...
✓	✓	Windows Do...
✓	✓	Windows Do...
✓	✓	Windows Do...
✓	✓	Fedora Admin

アプリケーションが自動検出されると、[アプリケーション]ビューに検出されたアプリケーションがリスト表示されます。



名前 ^	タイプ	ソース	ポリシー	コンプライア...	保護	検出	資格情報	所有者
HYCU00DCNJOPSVM002\DEVELOPER	MS SQL Server	Boston-Nutani...	Silver - WORM	✓	✓	✓		
HYCU00DCNJOPSVM002\MSSQLSERVER	MS SQL Server	Boston-Nutani...	Silver - WORM	✓	✓	✓		
HYCU00DCNJOPSVM001\DEVELOPER	MS SQL Server	Boston-Nutani...	Silver	✓	✓	✓		
HYCU00DCNJOPSVM001\MSSQLSERVER	MS SQL Server	Boston-Nutani...	Silver	✓	✓	✓		
HYCU00DCNJEXVM0.demolab.net	MS Exchange Ser...	Boston-Nutani...	Gold	✗	✗	✗		
demolab.net	MS Active Direct...	Boston-Nutani...	Exclude	?	?	✓		

# ソースとしてNutanix Filesを登録

この章はNutanix Filesを登録する手順を紹介しており

仮想マシンをバックアップする場合は、この章をスキップしてください。

# ソースとしてNutanix Filesを登録

① HYCU画面でソースに進みます。

ファイルサーバータブを選択し、「+新規」をクリックします。

Infrastructure Group

- クラウドアカウント
- 暗号化
- IDプロバイダー
- HYCUインスタンス
- iSCSIイニシエーター
- ライセンス
- ロギング
- ネットワーク
- 保持期限管理
- 電源オプション
- シークレット管理
- SMTPサーバー設定
- ソフトウェアのアップグレード
- ソース**
- SSH認証
- SSL証明書
- テレメトリ



ソース

ハイパーバイザー      クラウド      **ファイルサーバー**      物理マシン

     Rows per page 10 | Page < 0 > of 0

**+ 新規**    編集    削除

ファイルサーバー名	バージョン	URL	タイプ	ユーザー名	健全性
表示する項目がありません。					

ファイルサーバー > 新規

**Nutanix Filesサーバー**  
Nutanix Filesサーバーを追加します。

Dell PowerScale OneFSサーバー  
Dell PowerScale OneFSサーバーを追加します。

NetApp ONTAPサーバー  
NetApp ONTAPサーバーを追加します。

閉じる    前へ    **次へ**

# ソースとしてNutanix Filesを登録

② Files接続のため、次の値を入力します。

- URL : Nutanix Filesのクライアントネットワーク側のアドレスをhttps://xxx:9440の形式で入力
- REST APIユーザー名 :
- 上記ユーザーのパスワード :

ファイルサーバー > 新規 Nutanix Filesサーバー ? X

URL

REST APIユーザー名

パスワード

[閉じる](#) [前へ](#) [次へ](#)

# ソースとしてNutanix Filesを登録

③ 共有フォルダバックアップのため、次の値を入力します。

- SBMバックアップ管理ユーザー名：
- 上記ユーザーのパスワード：

### SMBプロトコル

共有フォルダへのアクセスにSMBプロトコルを使用する

SMBバックアップ管理ユーザー名

パスワード

### NFSプロトコル

共有フォルダへのアクセスにNFSv4/NFSv3プロトコルを使用する <sup>?</sup>

[閉じる](#) [前へ](#) [保存](#)

# ソースとしてNutanix Filesを登録

以上で登録作業は完了です。

「共有フォルダ」メニューにNutanix Files上の共有フォルダが表示されます。

ソース					
ハイパーバイザー	クラウド	ファイルサーバー	物理マシン		
+ 新規    ✎ 編集    🗑️ 削除					
検索		Rows per page 10   Page < 1 > of 1   1			
ファイルサーバー名	バージョン	URL	タイプ	ユーザー名	健全性
bostonafs	3.8.1.3	https://bostonafs.demolab...	Nutanix Files	restapiuser	✔️

HYCU®				
共有フォルダ 🔄				
検索				
<input type="checkbox"/> 名前 ^	プロトコル	タイプ	ファイルサ...	
<input type="checkbox"/> Marketing	SMB	Nutanix Files	bostonafs	
<input type="checkbox"/> Research	NFS	Nutanix Files	bostonafs	

# ソースとしてNutanix Filesを登録

※Nutanix FilesのクライアントネットワークのアドレスはPrism画面→[File Server]メニューから対象Filesを選択し、[Update]→[Network Configuration]画面から確認できます。  
ホスト名へ名前解決できている場合はホスト名を使用できます。

The screenshot shows the Nutanix Prism interface for managing File Servers. The main table lists the 'workshop-files' server with details like Version (3.8.1.3), Share/Export Count (2), and Space Used (34.42 MiB). Below the table, the 'Update' menu is open, showing options like 'Name & Domain', 'Capacity', 'Scale up/down FSVMs', 'Network Configuration' (highlighted), and 'Blocked File Types'.

The 'Update File Server Network' page shows the configuration for the Client Network. A diagram illustrates the network topology: Directory Services (AD, LDAP, etc.), Users, and DNS connect to the Client-Side Network, which connects to the File Server, which in turn connects to the CVM. Below the diagram, the 'Network Details' section includes a warning: 'Please remove existing file\_server\_dns\_entries before changing the client network.' The configuration fields include VLAN (VLAN.0 - Unmanaged), Subnet Mask (255.255.255.0), and Gateway (10.169.28.250). A table at the bottom specifies the required IP address(es):

FROM	TO	NO OF IPS	ACTIONS
10.169.28.96	10.169.28.96	1	✎ ✕

# ソースとしてNutanix Filesを登録

※Nutanixにアクセスする際に使用するアカウント情報はPrism画面→[File Server]メニューから対象Filesを選択し、[Configure]→[Manage roles]画面から確認できます。

The screenshot shows the Nutanix Prism interface for a File Server named 'workshop-files'. The 'Configure' dropdown menu is open, and the 'Manage roles' option is highlighted with a red box. Other options in the menu include 'Create Share or Export', 'Directory Services', 'User Mapping', and 'DNS'. The main table shows the following data:

Name	Version	Share/Export Count	Open Connections	Space Used (Logical)	Space Used By Snapshots (Logical)	Protection Status	Recommendations	Actions
workshop-files	3.8.1.3	2	0	34.42 MiB	-	Protected	-	Launch Files Console

The 'Manage roles' dialog box is shown, containing two sections:

**Add admins**  
Add AD users as File Server Admins or Backup Admins. [?](#) [+ New user](#)

USER	ROLE	ACTIONS
hycuworkshop\administrator	File Server Admin: Full access	<a href="#">✎</a> <a href="#">✕</a>

**REST API access users**  
Manage users on the file server with REST API access [?](#) [+ New user](#)

USERNAME	PASSWORD	ACTIONS
workshop	*****	<a href="#">✎</a> <a href="#">✕</a>

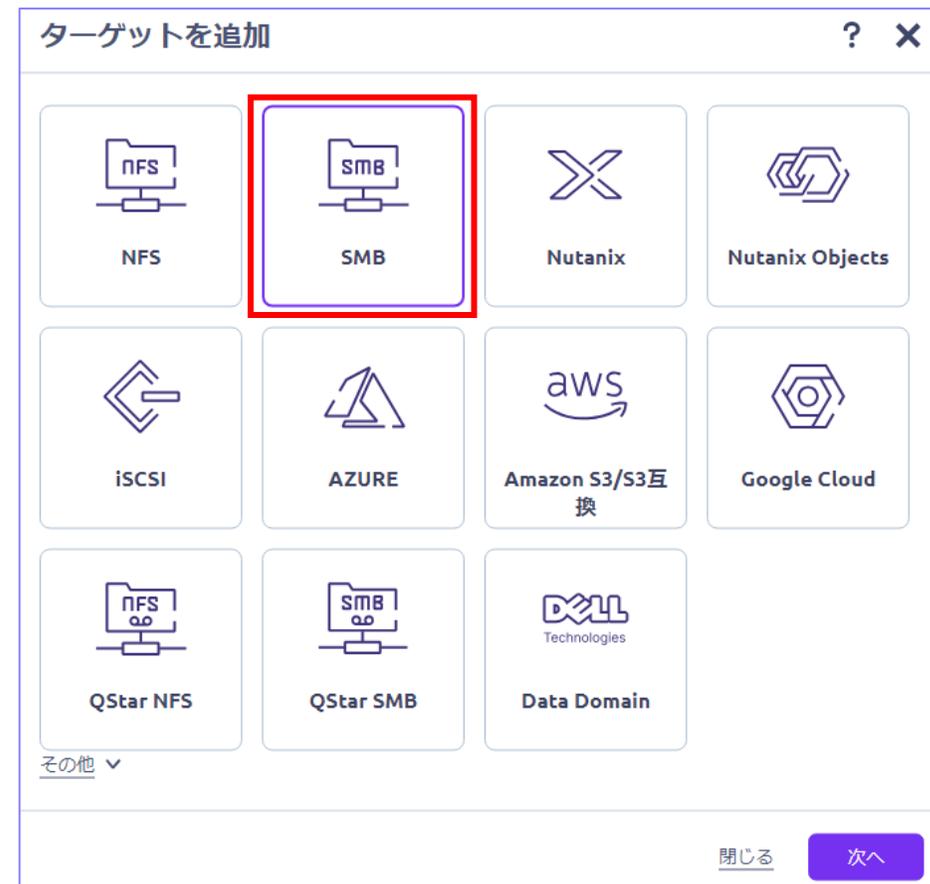
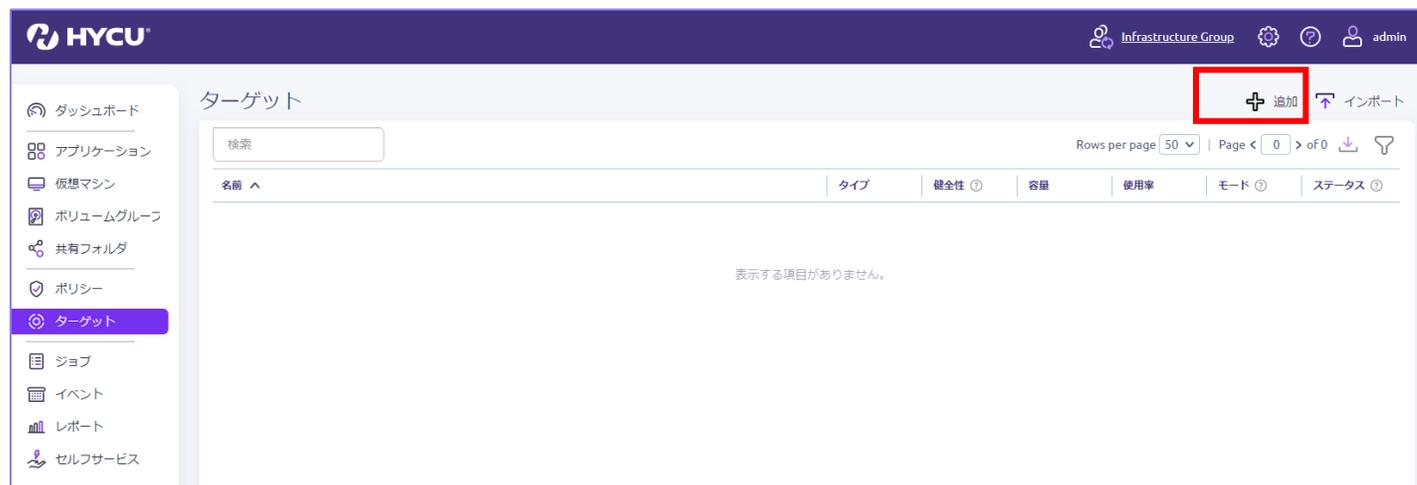
[Close](#)

# ターゲットの登録

# シナリオ 1 : NASをバックアップターゲットとして登録

① HYCU画面左「ターゲット」を選択します

「+追加」ボタンをクリックし、タイプでSMBを選択します



# シナリオ 1 : NASをバックアップターゲットとして登録

## ② 任意のターゲット名を入力

[同時バックアップ数]欄に同時バックアップのジョブ数を入力します。VM 4 台を同時にバックアップする場合はここに 4 の値を入力します。1つのターゲットに対し複数台を同時バックアップできますが、ストレージのスループットやHYCU VMのリソースに大きく影響を受けるため、あまり大きな値を入力しないことが多いです。

[アーカイブに使用]欄は、アーカイブ専用ストレージの場合にトグルを有効にします。

[圧縮を有効にする]欄は、バックアップデータの圧縮を有効・無効にできます。

### ターゲットを追加 > ターゲットオプション ? ×

タイプ  
SMB

名前

説明 - オプション

同時バックアップ数 ?

アーカイブに使用 ?

圧縮を有効にする ?

[閉じる](#) [前へ](#) [次へ](#)

# シナリオ 1 : NASをバックアップターゲットとして登録

## ③ ターゲットタイプの選択

権限のあるアカウント情報、SMBサーバー、共有フォルダの情報を  
入力します。

[ターゲットの暗号化]を有効にすると、AES256によるデータ暗号化  
が有効になります。データ転送中およびデータ保存中のデータが暗  
号化されるため、セキュリティが強化されます。

[保存]ボタンをクリックすることで、ターゲット登録は完了です。

※NASの場合、容量オプションは空欄にします

### 追加 > ターゲットオプション

容量 - オプション ①

TIB

ドメイン - オプション

dev.com

ユーザー名 - オプション

HycuAdmin

パスワード - オプション

\*\*\*\*\*

SMBサーバー名またはIPアドレス

192.168.146.13

共有フォルダ ①

smb

ターゲットの暗号化

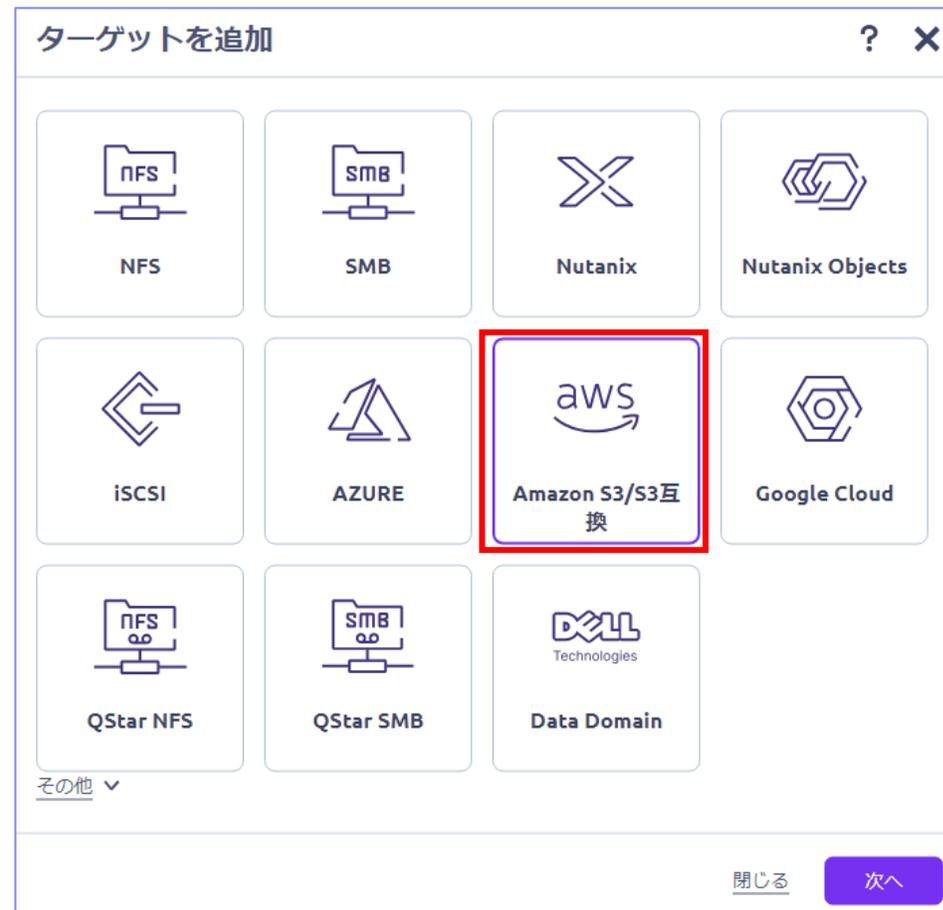
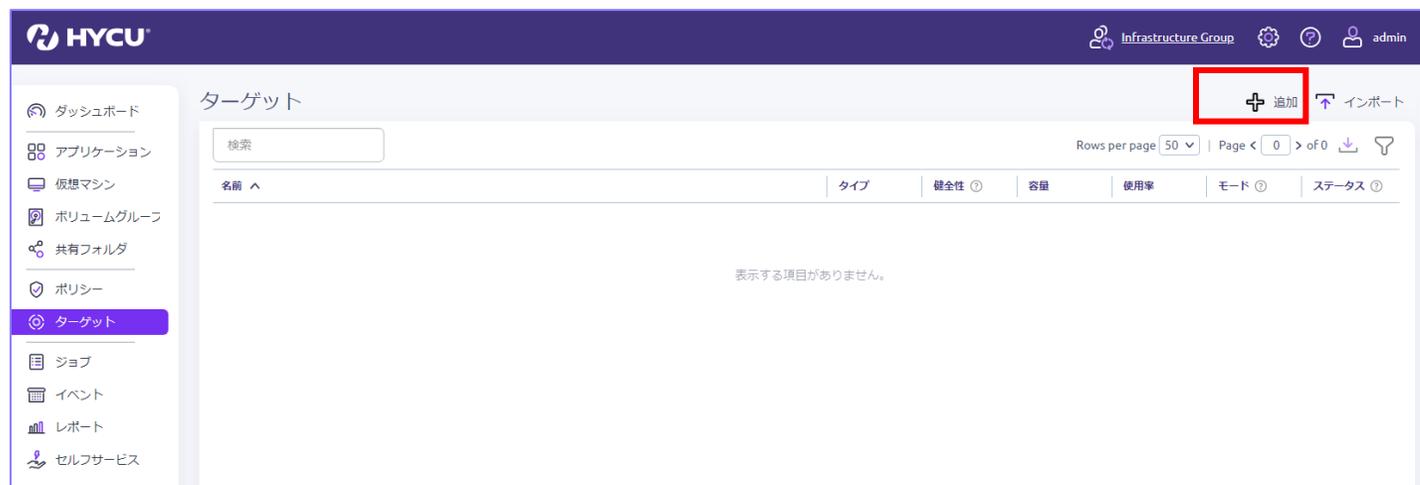
従量性ターゲット ①

閉じる 前へ **保存**

# シナリオ 2：クラウドをアーカイブターゲットとして登録

① HYCU画面左「ターゲット」を選択します

「+追加」ボタンをクリックし、タイプでAWS S3を選択します  
※Wasabi等AWS S3互換ストレージもこのタイプを選択します



# シナリオ 2：クラウドをアーカイブターゲットとして登録

## ② 任意のターゲット名を入力

[同時バックアップ数]欄に同時バックアップのジョブ数を入力します。VM 4 台を同時にバックアップする場合はここに 4 の値を入力します。1つのターゲットに対し複数台を同時バックアップできますが、ストレージのスループットやHYCU VMのリソースに大きく影響を受けるため、あまり大きな値を入力しないことが多いです。

[アーカイブに使用]欄は、アーカイブ専用ストレージの場合に **トグルを有効** にします。

[圧縮を有効にする]欄は、バックアップデータの **圧縮を有効** ・無効にできます。

※オブジェクトストレージをアーカイブターゲットにすると自動的に永久増分方式になります。

### ターゲットを追加 > ターゲットオプション ? ×

タイプ  
AWS S3

名前

説明 - オプション

同時バックアップ数 ?

アーカイブに使用 ?

圧縮を有効にする ?

[閉じる](#) [前へ](#) [次へ](#)

# シナリオ 2：クラウドをアーカイブターゲットとして登録

## ③ 接続情報の名を入力

追加 > ターゲットオプション

容量 ②  
50 TIB

サービスエンドポイント  
https://s3.amazonaws.com

ストレージクラス  
既定

バケット名  
hycujptarget

アクセスキーID  
AKIASK5NBKVRT6CAOIBV

シークレットアクセスキー  
.....

バススタイルアクセス  
 ターゲットの暗号化  
 従量性ターゲット ①

閉じる 前へ 保存

AWS S3バケットの場合、ストレージクラスを指定できます。

ストレージクラス

既定

既定

S3 Standard

S3 Standard-Infrequent Access

S3 Intelligent-Tiering

# ターゲットの登録

「ターゲット」メニューを開くと、保存場所のタイプ、健全性、容量や使用率等が把握できるようになっています。健全性とは、15分毎に実行するストレージへの接続テスト・読み書きテストの結果で判断しており、成功すると緑のチェックマークになります。失敗時はストレージへのアクセスに問題が発生していることを意味します。

The screenshot displays the HYCU web interface for managing targets. The left sidebar contains navigation options: ダッシュボード, アプリケーション, 仮想マシン, ボリュームグループ, 共有フォルダ, ポリシー, ターゲット (highlighted), ジョブ, イベント, レポート, and セルフサービス. The main content area is titled 'ターゲット' and includes a search bar, a table of targets, and action buttons (追加, 編集, 非アクティブ化, 削除). The table has the following data:

名前	タイプ	健全性	容量	使用率	モード	ステータス
AWS S3	AWS S3	✓	50 TiB	0%	読み書き	アクティブ
SMB	SMB	✓	500 GiB	9%	読み書き	アクティブ

# ポリシーの作成

# ポリシーの作成

ポリシーとはデータ保護のルールであり、RPO（目標復旧時点）、RTO（目標復旧時間）、保持期間を元に設定し、バックアップ、コピー、アーカイブなどのジョブを1つにまとめて作成します。このポリシーを保護対象に割り当てることで、ジョブを実行します。

HYCU画面左「ポリシー」を選択します

The screenshot shows the HYCU web interface. On the left is a navigation menu with items like 'ダッシュボード', 'アプリケーション', '仮想マシン', 'ボリュームグループ', '共有フォルダ', 'ポリシー', 'ターゲット', 'ジョブ', 'イベント', 'レポート', and 'セルフサービス'. The 'ポリシー' (Policy) item is highlighted. The main content area is titled 'ポリシー' and contains a search bar, a table of policies, and a detailed view for the 'Bronze' policy.

名前	コンプラ...	VM数	アプリ数	共有フォ...	VG数	説明
Bronze	✓	0	0	0	0	Backup every 24h, recover within 24h
Exclude	✓	0	0	0	0	Backup not required.
Gold	✓	0	0	0	0	Backup every 4h, recover within 4h
Silver	✓	0	0	0	0	Backup every 12h, recover within 12h

**Bronze**

概要

UUID  d5e8ba20-6e8e-428f-980b-1329f...

ポリシー適用のアイテム

0

仮想マシン      共有フォルダ

# ポリシーの作成



「既定に設定」ボタンは既定のポリシーを設定します。ポリシーを割り当てていないVMや共有フォルダにポリシーを割り当てます。Prismから新しくVMを作成し、HYCUがPrismと同期すると、この新しいVMにも既定のポリシーが割り当てられます。

# バックアップウィンドウの作成

「タイムウィンドウ」ボタンからバックアップウィンドウとコピーウィンドウを設定します。ポリシー1つに対し、バックアップウィンドウを一つ割り当てることができる為、異なる時間帯にバックアップを実行するには複数バックアップウィンドウを作成すると役に立ちます。コピーウィンドウも同様です。

タイムウィンドウ

検索

Rows per page 10 | Page < 0 > of 0

名前	タイプ	説明
表示する項目がありません。		

新規 編集 削除

タイムウィンドウ > ウィンドウを選択

**バックアップウィンドウ**  
バックアップジョブの開始を許可する時間帯を定義します。

**コピーウィンドウ**  
コピージョブの開始を許可する時間帯を定義します。

閉じる 前へ 次へ

平日は増分バックアップのみ、週末は完全バックアップと増分バックアップを実行するようなルールを作成することができます。

バックアップウィンドウ > 新規

名前  
バックアップウィンドウ

説明 - オプション

タイムゾーン  
Asia/Tokyo (UTC+09:00)

あなたのローカルタイムゾーン Asia/Tokyo (UTC+09:00) HYCUコントローラーのタイムゾーン Etc/UTC (UTC+00:00)

Full/Incremental Incremental Only

	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
月曜																									
火曜																									
水曜																									
木曜																									
金曜																									
土曜																									
日曜																									

タイムフレーム

すべてクリア

月曜	00:00-06:00	月曜	20:00-24:00	火曜	00:00-06:00	火曜	20:00-24:00	水曜	00:00-06:00	水曜	20:00-24:00
木曜	00:00-06:00	木曜	20:00-24:00	金曜	00:00-06:00	金曜	20:00-24:00	土曜	00:00-24:00	日曜	00:00-24:00

閉じる 前へ 保存

# アーカイブポリシーの作成

シナリオとしては、S3バケット等へ永久増分方式でデータを保存する場合にアーカイブポリシーを作成します。  
NASへのバックアップ時には、アーカイブは特に不要です。

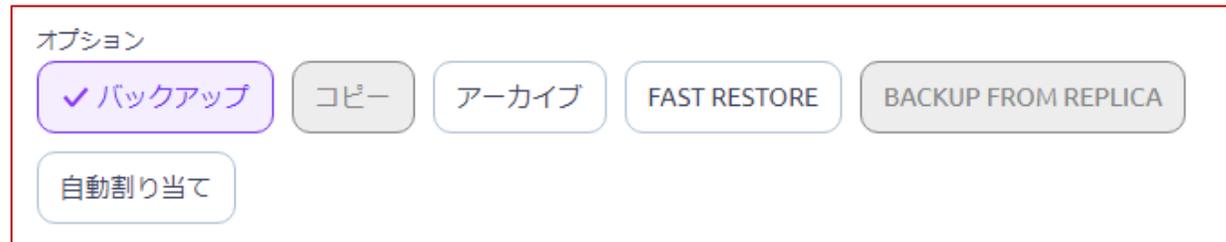
「アーカイブ」ボタンをクリックし、アーカイブのルールを作成します。  
ターゲット作成の際に、「アーカイブに使用」トグルを有効化したターゲットが、アーカイブ保存先になります。  
日次、週次、月次、年次のジョブが作成でき、組み合わせは自由です。  
※オブジェクトストレージへのアーカイブは永久増分方式となり、それ以外のストレージへのアーカイブは常に完全データ方式になります。



# バックアップポリシーの作成

「+新規」ボタンからポリシーを作成します

デフォルトでは[有効なオプション]欄でバックアップにチェックが入っています。バックアップのみ実行する場合はこのままで下の設定に進みますが、アーカイブジョブ等の追加が必要な場合はチェックを入れます。バックアップウィンドウ設定とコピーウィンドウはトグルを有効にすることで設定できます。



**コピー**：コピージョブを有効にします。バックアップジョブ完了後、別のターゲットにデータコピーを行います。リソースに空きのあるタイミング（非同期）で行い、コピーウィンドウで実行時間帯を指定できます。

**アーカイブ**：アーカイブジョブを有効にします。

**FAST RESTORE**：スナップショットの保持期間を指定します。複数世代のスナップショットを保持することで、迅速な復元が必要な場合にはスナップショットから高速復元を実現にします。

**BACKUP FROM REPLICA**：Nutanix保護ドメインを活用し、Nutanixリモートクラスタ上のVMからバックアップをする場合、ローカルにレプリケートされたレプリカからバックアップを実行します。

**自動割り当て**：Nutanix Prism Centralのカテゴリ、VMware vCenterのタグやカスタム属性を指定することで、対象VMにポリシーを自動で割り当てます。

# NASへのバックアップポリシー

NASへのバックアップは定期的に完全バックアップを取得します。[新しいバックアップチェーンを開始する]完全バックアップと増分バックアップの連結に関する設定です。

[バックアップのしきい値]次回の完全バックアップを実行するまでのしきい値を指定します。デフォルトでは25%となっており、初回完全バックアップの後は増分バックアップを実行しますが、前回の完全バックアップから計算してデータ変更率が25%になると、再度完全バックアップを実行します。

[バックアップチェーンの長さ]では完全バックアップと増分バックアップの世代数を指定します。この値を7にすると、完全バックアップ+増分バックアップ6世代=7世代となります。その次のバックアップが完全になります。

[バックアップのしきい値]と[バックアップチェーンの長さ]の両方を有効にすると、どちらからの条件に当てはまる時に完全バックアップを実行します。

※[バックアップウィンドウ]の制限により、完全バックアップが実行されないこともございます。その場合は設定より多く増分バックアップが続きます。

新しいポリシー

名前  
NASへバックアップ

説明・オプション

オプション  
✓ バックアップ コピー アーカイブ FAST RESTORE BACKUP FROM REPLICA  
自動割り当て

バックアップ  
バックアップ頻度 ①  
1 日  
復旧時間 ①  
1 日  
保持期間  
14 日

バックアップターゲットタイプ  
 スナップショット  
 ターゲット

新しいバックアップチェーンを開始する ①  
バックアップのしきい値 ②  
 25 %  
バックアップチェーンの長さ ③  
 7

ターゲット  
SMB

バックアップウィンドウを使用する  
バックアップウィンドウ ④  
バックアップウィンドウ

閉じる 保存

# AWS S3への永久増分ポリシー

AWS S3への永久増分方式は「バックアップ=スナップショット」と「アーカイブ」の組み合わせになります。

### 新しいポリシー

名前  
AWS S3への永久増分

説明・オプション

オプション  
 バックアップ  コピー  アーカイブ  FAST RESTORE  BACKUP FROM REPLICA

#### バックアップ

バックアップ頻度 ①  
1 日

保持期間  
4 週

バックアップターゲットタイプ  
 スナップショット  
 ターゲット

バックアップウィンドウを使用する

バックアップウィンドウ ①  
バックアップウィンドウ

#### アーカイブ

データアーカイブ  
アーカイブポリシー

# ファイルサーバーの永久増分バックアップの有効化

ファイルサーバーは共有フォルダ単位で「永久増分方式」を有効・無効設定できます。

1. 「共有フォルダ」メニューから対象共有フォルダを選択し、「構成」ボタンをクリック
2. 「永久増分バックアップ」トグルを有効化

以上です。バックアップポリシー内のチェーン設定がどのようなになっていても、共有フォルダのバックアップは常に増分バックアップになります。

The screenshot shows the HYCU web interface. On the left is a navigation menu with '共有フォルダ' (Shared Folders) selected. The main area displays a table of shared folders. A modal dialog titled '構成' (Configuration) is open over the 'Marketing' folder. The dialog contains a text input field for 'フォルダパスを除外' (Exclude folder path) with the example '/<absolute\_path>', an '追加' (Add) button, and a toggle switch for '永久増分バックアップ' (Permanent Incremental Backup) which is currently turned on. At the bottom of the dialog are '閉じる' (Close) and '保存' (Save) buttons. The background table shows columns for '名前' (Name), 'プロトコル' (Protocol), 'タイプ' (Type), 'ファイルサ...' (File System), 'ポリシー' (Policy), 'コンプライ...' (Compliance), '保護' (Protection), and '所有者' (Owner). The 'Marketing' folder is selected, showing SMB protocol, Nutanix Files type, bostonafs file system, and Silver - WORM policy.

# ポリシーの割り当て

管理画面左の「アプリケーション、仮想マシン、ボリュームグループ、共有フォルダ」等のメニューへ進みます。保護対象を選択後、「ポリシーの割り当て」ボタンをクリックし、保護対象へポリシーを割り当てます。

The screenshot shows the HYCU web interface. On the left sidebar, the '仮想マシン' (Virtual Machines) menu item is highlighted. The main content area displays a table of virtual machines with columns for '名前' (Name), 'ソース' (Source), 'ポリシー' (Policy), 'コンプライ...' (Compliance), '保護' (Protection), '検出' (Detection), '資格情報...' (Credentials), '検証' (Validation), and '所有者' (Owner). Three VMs are selected: SVR01, SVR02, and SVR03. A modal dialog titled 'ポリシーの割り当て' (Policy Assignment) is open, showing a search bar and a table of policies. The 'NASへバックアップ' (Backup to NAS) policy is highlighted in the table. At the bottom of the dialog, there are buttons for '閉じる' (Close), '割り当て解除' (Remove Assignment), and '割り当て' (Assign).

名前	説明
Bronze	Backup every 24h, recover within 24h
Exclude	Backup not required.
Gold	Backup every 4h, recover within 4h
NASへバックアップ	
Silver	Backup every 12h, recover within 12h

# バックアップの手動実行

管理画面左の「アプリケーション、仮想マシン、ボリュームグループ、共有フォルダ」等のメニューへ進みます。保護対象を選択後、「バックアップ」ボタンをクリックし、保護対象へポリシーを割り当てます。



HYCU Infrastructure Group

ダッシュボード  
アプリケーション  
仮想マシン  
ボリュームグループ  
共有フォルダ  
ポリシー  
ターゲット  
ジョブ

仮想マシン

検索

選択済: 3 X | Rows per page 50 | Page < 1 >

名前	ソース	ポリシー	コンプライ...	保護	検出	資格情報...	検証
<input type="checkbox"/> hycubackup	ntcluster		?	×	?		?
<input checked="" type="checkbox"/> SVR01	ntcluster	NASへバック...	×	×	?		?
<input checked="" type="checkbox"/> SVR02	ntcluster	NASへバック...	×	×	?		?
<input checked="" type="checkbox"/> SVR03	ntcluster	NASへバック...	×	×	?		?



バックアップ

こちらをバックアップしますか? SVR02, SVR03 そして SVR01 マシン

完全バックアップを実行

キャンセル はい

# バックアップのステータス確認

保護対象を選択すると、画面下に詳細ビューが表示されます。

バックアップステータスのチェックをクリックすると、ジョブのステータス画面に移動します。

**BCKP**アイコンはバックアップの意味であり、カーソルを合わせると有効期限が表示されます

**FULL**は完全バックアップ

**INCR**は増分バックアップ

**COPY**はコピーデータ

**ARCH**はアーカイブ

**SNAP**はスナップショットを意味します

ディスクを除外したバックアップは  
アイコンに●が付きます

名前	ソース	ポリシー	コンプライ...	保護	検出	資格情報...	検証
<input checked="" type="checkbox"/> HYCU00DCNJDEVVM004	Boston-Nutan...	Bronze - AWS	✓	✓	✗	Linux Root	?
<input type="checkbox"/> HYCU00DCNJENGVM001	Boston-Nutan...	Bronze	✓	✓	✓	Windows Do...	?
<input type="checkbox"/> HYCU00DCNJEXVM001	Boston-Nutan...	Gold	✗	✓	✓	Windows Do...	?
<input type="checkbox"/> HYCU00DCNJEXVM002	Boston-Nutan...	Bronze	✓	✓	?		?
<input type="checkbox"/> HYCU00DCNJFINVM001	Boston-Nutan...	Bronze	✓	✓	?		?

概要	復元ポイント	コンプライアンス	バックアップス...
<b>HYCU UUID</b> 066f269a-29ca-4824-931d-e381a3...	<input type="checkbox"/> 2024/1/15 22:11:19	INCR BCKP COPY SNAP	✓
<b>ソースUUID</b> 4d3498ab-68c0-4c97-8a8e-8a37da...	<input type="checkbox"/> 2024/1/14 22:20:01	INCR BCKP COPY	✓
<b>IPアドレス</b> 10.202.110.200	<input type="checkbox"/> 2024/1/13 22:30:11	INCR BCKP COPY	✓
<b>ディスク容量</b> 5 GiB	<input type="checkbox"/> 2024/1/12 22:45:10	INCR BCKP COPY	✓

# バックアップのステータス確認

「ジョブ」メニューからジョブを選択すると、ジョブの詳細が確認できます。  
「レポートを見る」ボタンからも同じ情報を確認できます。

The screenshot shows the HYCU web interface. The top navigation bar includes the HYCU logo, 'Infrastructure Group', and user 'admin'. The left sidebar contains navigation items: ダッシュボード, アプリケーション, 仮想マシン, ボリュームグループ, 共有フォルダ, ポリシー, ターゲット, **ジョブ**, イベント, レポート, and セルフサービス. The main content area is titled 'ジョブ' and features a search bar, a table of jobs, and a detailed report for the selected job 'SVR01 を SMB へバックアップ'. A red box highlights the 'レポートを見る' button in the top right and the detailed report table below. Another red box highlights the job list table.

Job List Table:

名前	ステータス	作成日時	終了日時
<input checked="" type="checkbox"/> SVR01 を SMB へバックアップ	✓	2024/1/16 11:27:19	2024/1/16 11:27:38
<input type="checkbox"/> SVR03 を SMB へバックアップ	✓	2024/1/16 11:27:19	2024/1/16 11:27:39
<input type="checkbox"/> SVR02 を SMB へバックアップ	✓	2024/1/16 11:27:19	2024/1/16 11:27:38
<input type="checkbox"/> ソース https://192.168.146.53:9440 を追加	✓	2024/1/16 11:17:30	2024/1/16 11:18:02

Detailed Report for 'SVR01 を SMB へバックアップ':

概要	名前	ステ...	開始日時	終了日時	
UUID	<input type="checkbox"/> ecd66090-79a8-458e-b2f0-1fab9...	初期化	✓	2024/1/16 11:27:20	2024/1/16 11:27:20
タイプ	完全バックアップ	バックアップの準備	✓	2024/1/16 11:27:20	2024/1/16 11:27:20
バックアップUUID	2f4eb007-a495-4052-9c00-0d4356f2...	Nutanixゲストツールを確認	✓	2024/1/16 11:27:20	2024/1/16 11:27:20
元のソース	ntcluster	プラットフォームの準備状況を確認	✓	2024/1/16 11:27:20	2024/1/16 11:27:20
ターゲット	SMB	スナップショットを作成	✓	2024/1/16 11:27:20	2024/1/16 11:27:20

# データ復元

# 復元の粒度

---

## 仮想マシン：

- 仮想マシン丸ごとを元場所や異なる環境（別ハイパーバイザーやクラウド\*）に復元
- ディスク単位の復元
- ファイル/フォルダ単位で元の場所やNASへ復元、ダウンロード

## 物理マシン：

- マシン丸ごとを仮想環境やクラウド\*に復元
- ファイル/フォルダ単位で元の場所やNASへ復元、ダウンロード

## ファイルサーバー：

- ファイル・フォルダを元の場所や別のNASへ復元、ダウンロード

## アプリケーション：

- Exchangeデータベースまたはメールボックスの復元
- MS SQLやOracleデータベースの復元
- Active DirectoryやSAP HANAマシンの復元

# 仮想マシンの復元

HYCU画面左「仮想マシン」を選択し、次に対象マシンを選択します

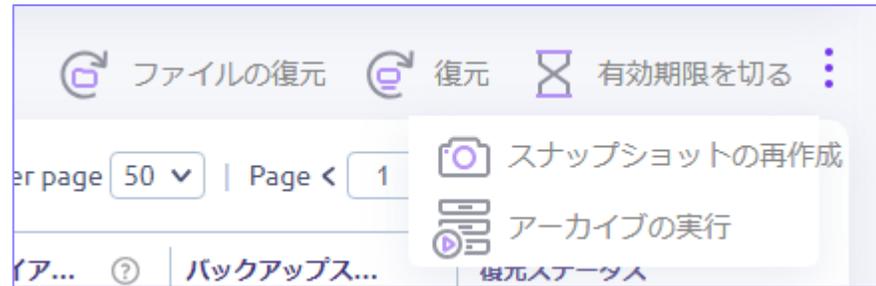
The screenshot displays the HYCU web interface for managing virtual machines. The left sidebar contains navigation options: ダッシュボード, アプリケーション, 仮想マシン (highlighted), ボリュームグループ, 共有フォルダ, ポリシー, ターゲット, ジョブ, イベント, レポート, and セルフサービス. The main area shows a list of virtual machines under the heading '仮想マシン'. The table has columns for Name, Source, Policy, Compliance, Protection, Detection, Audit Information, Verification, and Owner. The VM 'SVR04' is selected. Below the table, a detailed view for 'SVR04' is shown, including a summary of HYCU UUID, Source UUID, and Disk Capacity, and a table of restore points with their respective compliance and backup statuses. A red box highlights the '復元' (Restore) button in the bottom right of the VM list.

名前	ソース	ポリシー	コンプライ...	保護	検出	資格情報ク...	検証	所有者
<input checked="" type="checkbox"/> SVR04	ntcluster	AWS S3への...	✓	✓	?		?	
<input type="checkbox"/> SVR05	ntcluster	AWS S3への...	✗	✗	?		?	
<input type="checkbox"/> SVR06	ntcluster	AWS S3への...	✗	✗	?		?	
<input type="checkbox"/> WINSVR1	ntcluster		?	✗	?		?	
<input type="checkbox"/> WINSVR10	...		?	✗	?		?	

概要	復元ポイント	コンプライア...	バックアップス...	復元ステータス
<b>HYCU UUID</b> 163b4f8b-3bc4-435b-a13b-9941...	<input type="checkbox"/> 2024/1/16 11:44:12	D ARCH ✓ SNAP ✓	✓	✓
<b>ソースUUID</b> daae95e9-3a17-439d-9992-184bf...	<input type="checkbox"/> 2024/1/16 11:43:13	D ARCH ✓ SNAP ✓	✓	✓
<b>ディスク容量</b> 20.48 MiB	<input type="checkbox"/> 2024/1/16 11:34:15	D ARCH ✓ SNAP ✓	✓	✓
<b>メモリ</b> 1 GiB				

# 仮想マシンの復元



各ボタンの用途はこちら：

[ファイルの復元] ファイル/フォルダ単位の復元を実行

[復元] 仮想マシン全体を元の場所や異なる場所、異なるハイパーバイザー上に復元します

[有効期限を切る] バックアップデータを保持期限切れ（削除）にします（復元ではありません）

[スナップショットの再作成] NutanixやVMware vSAN/vVolスナップショットを再作成します

[アーカイブの実行] 手動でアーカイブジョブを実行（復元ではありません）

# 仮想マシンの復元

「VMの復元」ボタンをクリックします



[VMの復元]を選択すると元のマシンを削除し、バックアップデータを元の設定で復元します。

[VMのクローン]を選択し、[次へ]をクリックして、次に進みます。

# 仮想マシンの復元

### VM復元のオプション > VMのクローン

! 仮想マシンを元の場所または新しい場所に復元することで、元の仮想マシンのクローンを作成できます。この場合、元の仮想マシンは上書きされません。

元のソース  
Nutanix AHV/ntcluster

宛先ソース  
元のソース (Nutanix AHV/ntcluster)

! 選択した復元ポイントのプラットフォーム準備状況チェックが成功しませんでした。

閉じる 前へ 次へ

停止状態のVMをバックアップしている場合、この警告が表示されますが問題ありませんので、無視してください。



### VM復元のオプション > VMのクローン

全般

ストレージコンテナ  
元の場所 (ntcluster/default-container-70412818642825 (270.87 GiB の空き容量))

復元元  
自動

新しいVM名  
SVR04-1705373642

元のVM設定を使用

vCPU(S)  
1

vCPUあたりのコア数  
1

メモリ  
1 GIB

仮想マシンの電源をオンにする

ネットワーク

ネットワークアダプター (NIC)	VMネットワーク	MACアドレス
Network adapter 1	vlan0	50:6b:8d:b7:59:cd

元のMACアドレスを維持

閉じる 前へ 復元

自動

アーカイブ

スナップショット

復元に使用するデータ

- ・スナップショット
- ・バックアップ
- ・コピー
- ・アーカイブ

を明示的に指定できます。

# 仮想マシンのファイル復元

「ファイルの復元」ボタンをクリックします

 ファイルの復元

### ファイルの復元

復元に使用する階層を選択します：

復元元

自動

自動

アーカイブ

スナップショット



### ファイルの復元

ファイルパス: C:/Users

検索

Rows per page: 50 | Page < 1 > of 1 | 7

名前	タイプ	容量	変更日
<input checked="" type="checkbox"/> Administrator	Directory		2022/10/13 1:33:08
<input checked="" type="checkbox"/> Administrator.DEMOLAB	Directory		2022/10/28 4:44:18
<input checked="" type="checkbox"/> All Users	Symlink_di...		2016/7/16 22:34:35
<input checked="" type="checkbox"/> Default	Directory		2022/10/13 1:33:08
<input checked="" type="checkbox"/> Default User	Symlink_di...		2016/7/16 22:34:35
<input checked="" type="checkbox"/> Public	Directory		2016/11/21 17:17:20

閉じる 次へ

# 仮想マシンのファイル復元

単一ファイルの復元 > ファイルとフォルダの選択

**仮想マシンに復元**  
ファイルを元の仮想マシンまたは別の仮想マシンに復元します。

外部共有フォルダに復元  
ファイルを外部NFSまたはSMB共有に復元します。

ダウンロード  
ファイルをローカルにダウンロードする

閉じる 前へ 次へ



単一ファイルの復元 > 仮想マシンに復元

全般 プレ/ポストスクリプト

仮想マシン  
HYCU00DCNJENGVM001 (Original)

パス  
 元の場所  
 別の場所

同じVM上のパス  
C:\Users\username\AppData\Local\Temp

ファイルがすでに存在する場合に実行するアクション ①  
 上書き  
 スキップ  
 元の名前を変更  
 復元後の名前の変更

ACLの復元

閉じる 前へ 復元

仮想マシンへの直接復元を実行するには資格情報の割り当て（権限の付与）が必要です。  
資格情報未割り当ての場合は選択できません。

# MS SQLデータベースの復元

「アプリケーション」メニューから対象データベースを選択し、「復元」ボタンをクリックします

The screenshot shows the HYCU console interface. On the left is a navigation menu with options like 'ダッシュボード', 'アプリケーション', '仮想マシン', etc. The main area is titled 'アプリケーション' and displays a table of applications. One application, 'HYCU00DCNJOPVSM001\MSSQLSERVER', is selected. Below the table, a '復元' (Restore) button is highlighted with a red box. The bottom section shows the details for the selected application, including a table of restore points. The first restore point is selected.

名前	タイプ	ソース	ポリシー	コンプライア...	保護	検出	資格情報	所有者
<input type="checkbox"/> HYCU00DCNJOPVSM002\MSSQLSERVER	MS SQL Server	Boston-Nutani...	Silver - WORM	✓	✓	✓		
<input type="checkbox"/> HYCU00DCNJOPVSM001\DEVELOPER	MS SQL Server	Boston-Nutani...	Silver	✓	✓	✓		
<input checked="" type="checkbox"/> HYCU00DCNJOPVSM001\MSSQLSERVER	MS SQL Server	Boston-Nutani...	Silver	✓	✓	✓		
<input type="checkbox"/> HYCU00DCNJEXVM0.demolab.net	MS Exchange Ser...	Boston-Nutani...	Gold	✗	✗	✗		
<input type="checkbox"/> demolab.net	MS Active Direct...	Boston-Nutani...	Exclude	?	?	✓		

概要	復元ポイント	コンプライアンス	バックアップステ...	復元ステータス
<b>HYCU UUID</b> 0791109F-3699-4F8c-98F1-8aecf05...	<input checked="" type="checkbox"/> 2024/1/16 9:41:02	✓	✓	✓
<b>バージョン</b> 13.1.4001.0	<input type="checkbox"/> 2024/1/15 21:55:18	✓	✓	✓
<b>仮想マシン</b> HYCU00DCNJOPVSM001	<input type="checkbox"/> 2024/1/15 10:03:11	✓	✓	✓
<b>最後に成功したバックア...</b>	<input type="checkbox"/> 2024/1/14 22:04:02	✓	✓	✓

# MS SQLデータベースの復元

復元対象のデータベースを選択し、ポイントインタイムで戻したい任意の時点を入力します。

なるインスタンスを指定し、異なる場所にデータベースを復元することも可能です。

### Restore MS SQLサーバー

**サーバー全体を復元**  
仮想マシンを復元して、アプリケーションサーバー全体を復元します。

**データベースを復元**  
選択したデータベースを復元します。

[閉じる](#) [次へ](#)



### Restore MS SQLサーバー > データベース

ターゲットインスタンス  
HYCU00DCNJOPVSM001\MSSQLSERVER

宛先可用性グループ  
アイテムは利用できません

復元元  
自動

インスタンス全体

データベース名

- bigdb
- master
- model
- msdb
- Northwind

ポイントインタイム  
2024/1/16 9:40

**!** 選択した復元ポイント (2024/1/15 21:56:46) と (2024/1/16 9:40:46) の間の時間を指定する必要があります。

[閉じる](#) [前へ](#) [次へ](#)

# MS SQLデータベースの復元

データベースの復元オプションを指定する。

### Restore MS SQLサーバー > データベース復元オプション

データベースを復旧状態のままにする

既存のデータベースを上書きする

データベースプレフィックス  
hycu\_202401160308909\_

新しいデータベースファイルの場所  
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL13.MSSQLSERVER\MSSQL\DATA

新しいデータベースログの場所  
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL13.MSSQLSERVER\MSSQL\DATA

[閉じる](#) [前へ](#) [復元](#)

# アップグレード（バージョンアップ）

# 製品のアップグレード：事前準備

事前に新しいバージョンのイメージをサポートポータルから入手し、Nutanix PrismまたはvCenterのコンテンツライブラリにアップロードします。

- Nutanixの場合はqcow2イメージ
- VMwareの場合はovfテンプレートとvmdkファイルの2つ

重要：イメージファイルをアップロードする際、hycu-<Version>-<Revision>の名前ルールで登録します。

例：hycu-5.1.0-2871

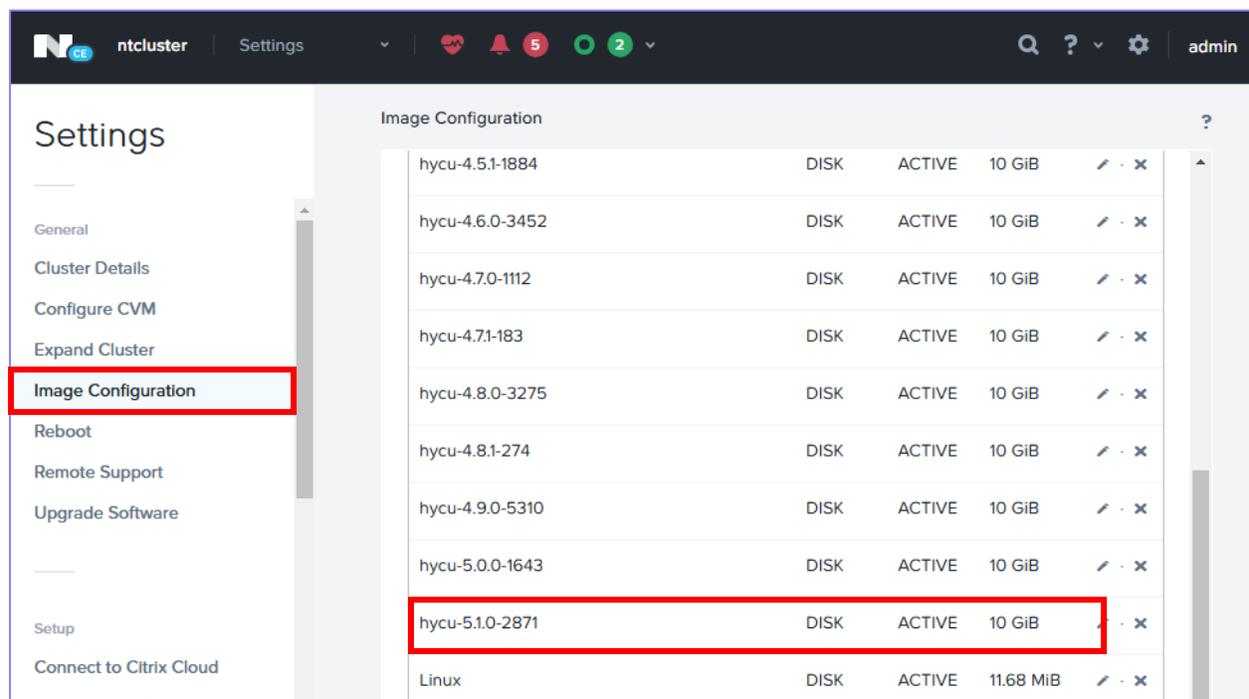
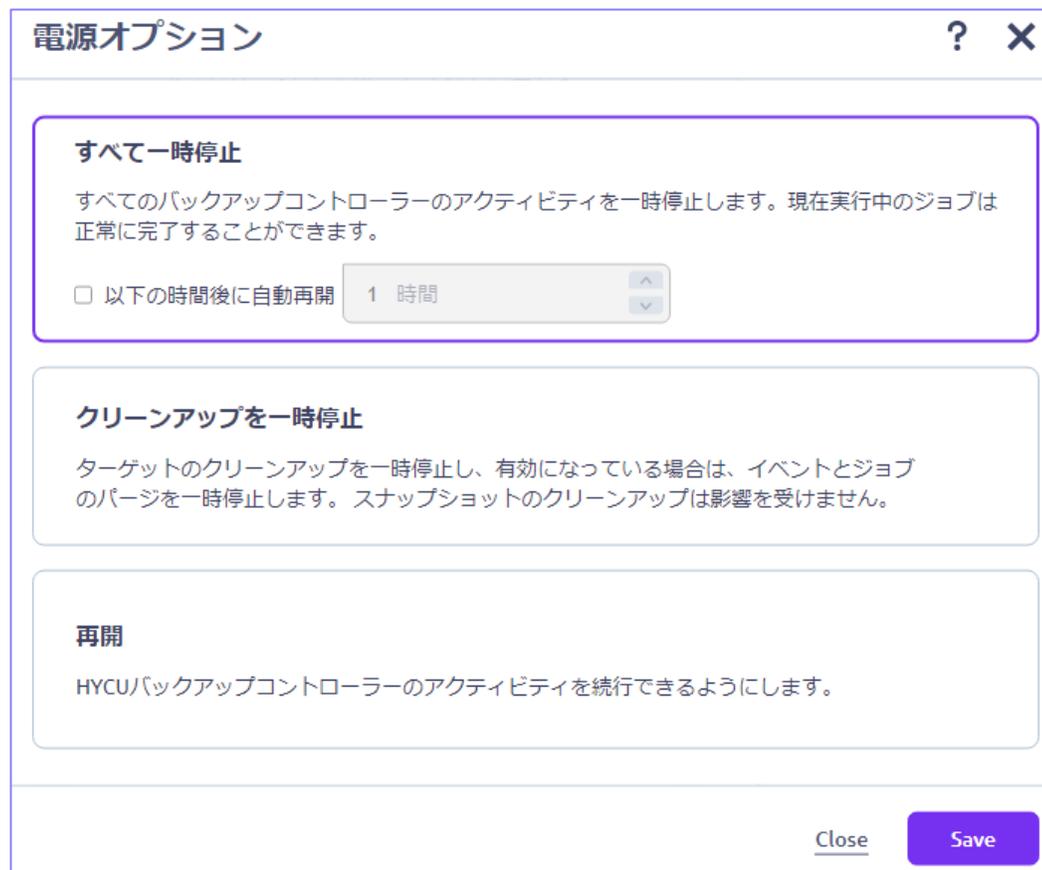
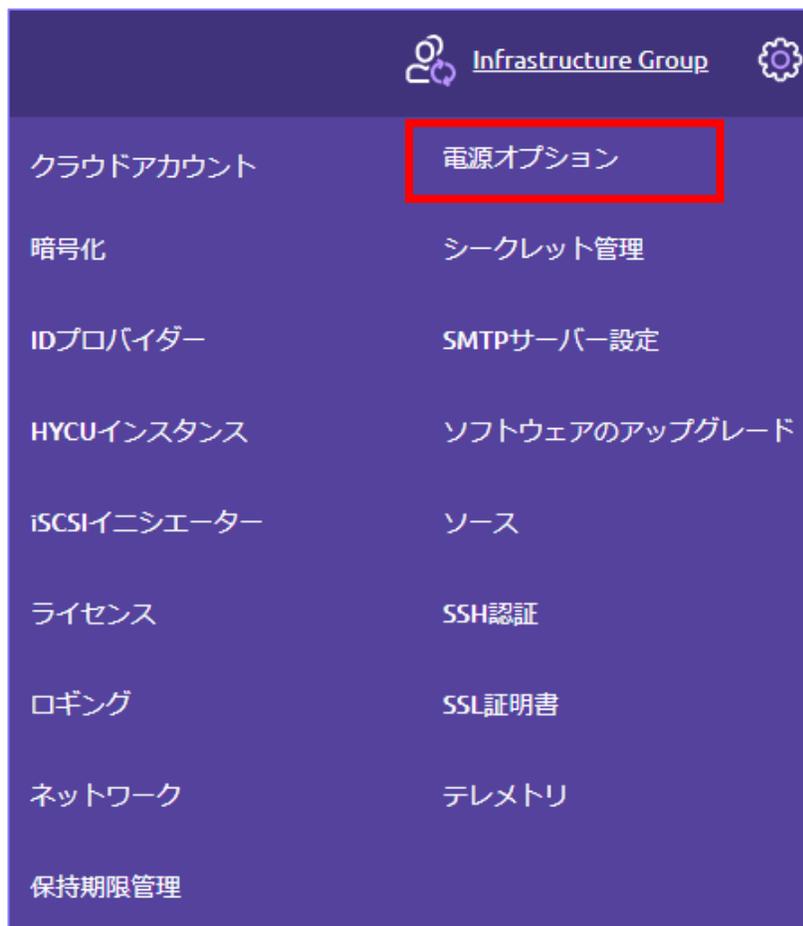


Image Name	Type	Status	Size	Actions
hycu-4.5.1-1884	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-4.6.0-3452	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-4.7.0-1112	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-4.7.1-183	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-4.8.0-3275	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-4.8.1-274	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-4.9.0-5310	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-5.0.0-1643	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
hycu-5.1.0-2871	DISK	ACTIVE	10 GiB	✎ · ✕
Linux	DISK	ACTIVE	11.68 MiB	✎ · ✕

# 事前作業

## ① ジョブの停止

「画面右上の歯車」→「電源オプション」に進み、「すべて一時停止」を選択の上、保存ボタンをクリックします。



# 製品のアップグレード

② ソフトウェアのアップグレードに進みます



Infrastructure Group

クラウドアカウント	電源オプション
暗号化	シークレット管理
IDプロバイダー	SMTPサーバー設定
HYCUインスタンス	<b>ソフトウェアのアップグレード</b>
iSCSIイニシエーター	ソース
ライセンス	SSH認証
ロギング	SSL証明書
ネットワーク	テレメトリ
保持期限管理	



③ リリースに進み、利用可能なバージョンで hycu-5.1.0-2871 を選択し、ソフトウェアのアップグレードボタンをクリックします。



ソフトウェアのアップグレード

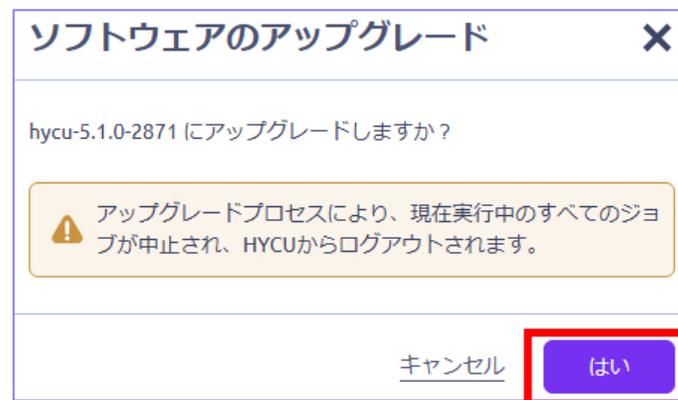
リリース      アップデート

現在のバージョン  
5.0.0-1643

新しいバージョンを確認してください

利用可能なバージョン  
hycu-5.1.0-2871

閉じる      **ソフトウェアのアップグレード**



ソフトウェアのアップグレード

hycu-5.1.0-2871 にアップグレードしますか？

**!** アップグレードプロセスにより、現在実行中のすべてのジョブが中止され、HYCUからログアウトされます。

キャンセル      **はい**

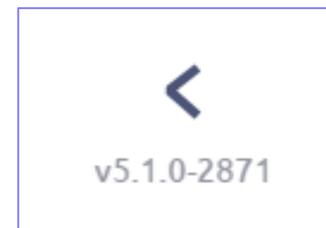
# 製品のアップグレード

- ④ アップグレード実行中は強制的にサインオフされ、サインインはできません。  
※アップグレードは5分程度で完了します。



※以前のHYCUサーバーは名前を変更して保存しています。  
ロールバックが必要な場合はNutanix Prismから以前のサーバーを起動できます。  
アップグレード後、不要であれば削除してください。

- ⑤ アップグレード完了後にサインインします。  
画面左下からバージョンがv5.1.0-2871へ更新されたことが確認できます。



インスタンスは同期のタイミングで自動的にアップグレードされ、10分程度で完了します。  
インスタンスメニューから確認できます。

HYCUインスタンス					
VM名	ホスト名	ソース	ステータス	バージョン	IPアドレス
hycuinstance	hycuinstance	ntcluster	✓	5.1.0-2871	192.168.146.32

# 製品のアップグレード

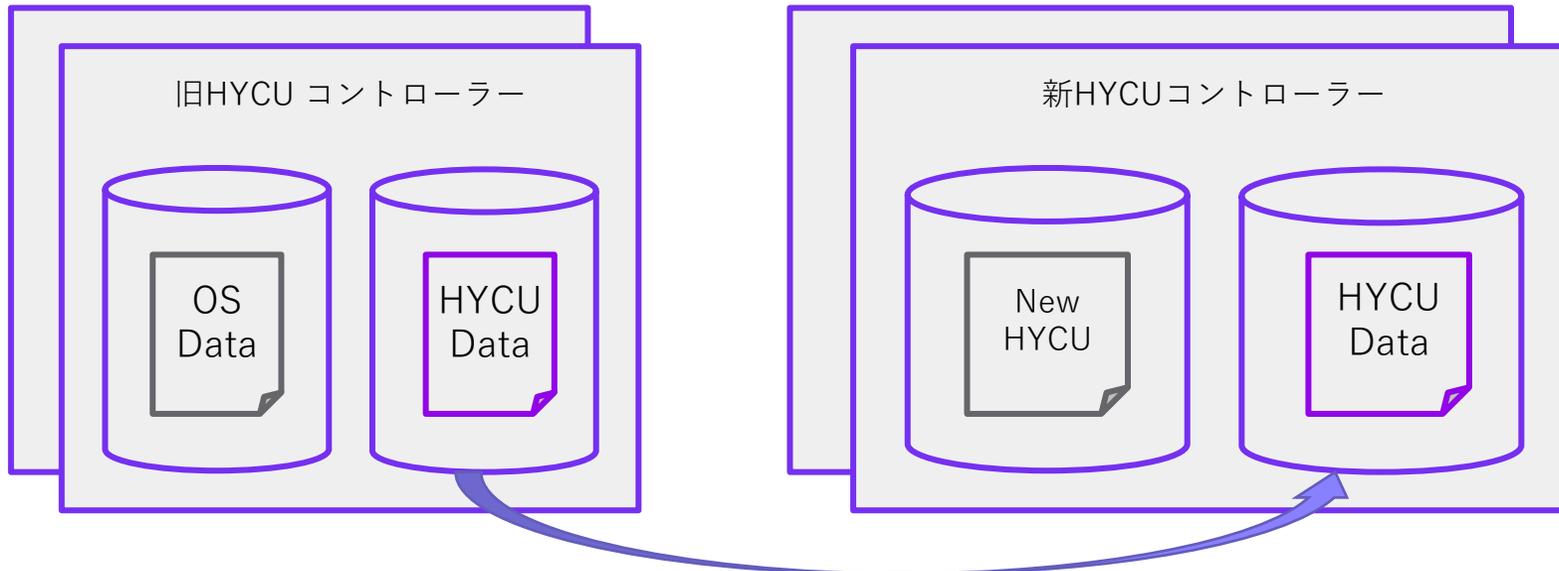
アップグレード中には以下の作業を実行しています。

1. 元のHYCU VMの停止と名前変更  
名前付けルールは<HYCUBackupControllerName>\_version\_<OldHYCUVersion>です
2. 新しいイメージから新規にHYCU VMを作成
3. 元のHYCU VMのデータディスクをクローンし、新しHYCU VMにマウント

元のVMから設定を引き継ぐ為、アップグレード完了後はこれまで通りサインインできます。

問題がないことを確認後、旧HYCU VMは削除しても大丈夫です。

※ブラウザのキャッシュの影響により、HYCU管理画面の表示が古いバージョンのままになっていることがあります。  
その場合は、ブラウザのキャッシュを削除してください。



# 事後作業

## ⑥ ジョブの再開

「画面右上の歯車」→「電源オプション」に進み、「再開」を選択の上、Saveボタンをクリックします。以上です。

